

中米広域防災能力向上プロジェクト  
“BOSAI”  
中間レビュー調査  
報告書

平成 22 年 6 月  
(2010 年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部



## 中間レビュー調査写真



コミュニティ災害リスクマップ  
(ホンジュラス オコティージョ)



コミュニティ聴き取り調査  
(ホンジュラス マタパロス・アリバ)



ソイルセメントの強度検証  
(パナマ カピラ県)



施工済みの古タイヤ堤防  
(コスタリカ カーニャス市ホテル地区)



プロジェクトと連携した活動を実施して  
いる青年海外協力隊員  
(コスタリカ カーニャス市 田中隊員)



防災機関聴き取り調査  
(エルサルバドル Protección Civil)



洪水被災状況の説明  
 (エルサルバドル ラス・オハス)



コミュニティによる自主防災組織の説明  
 (ニカラグア サリナス・グランデ)



防災機関への聴き取り調査  
 (ニカラグア SINAPRED)



火山リスクマップ  
 (グアテマラ フェゴ火山)

# 目 次

中間レビュー調査写真

目 次

略語表

評価調査結果要約表

第1章	中間レビュー調査の概要	1-1
1-1	調査団派遣の経緯・目的	1-1
1-2	調査団の構成および調査日程	1-2
第2章	中間レビューのプロセス	2-1
2-1	レビュー手順	2-1
2-2	PDM	2-1
2-3	プロジェクト独自のレビューの視点	2-1
2-4	現地コンサルタントによる事前データ収集	2-2
第3章	実績と実施プロセスの確認	3-1
3-1	プロジェクト実施体制	3-1
3-2	投入実績	3-2
3-3	活動実績	3-3
3-4	成果の達成状況	3-7
3-5	プロジェクト目標の達成見込み	3-10
3-6	上位目標の達成見込み	3-11
3-7	効果発現を促進・阻害した要因	3-11
第4章	評価5項目によるレビュー結果	4-1
4-1	妥当性	4-1
4-2	有効性	4-1
4-3	効率性	4-1
4-4	インパクト	4-2
4-5	自立発展性	4-2
4-6	結論	4-3
第5章	提言・教訓	5-1
5-1	提言	5-1
5-2	教訓	5-2

## 付属資料

- 1-1 修正 R/D (コスタリカ) (英文・西文)
- 1-2 修正 R/D (エルサルバドル) (英文・西文)
- 1-3 修正 R/D (グアテマラ) (英文・西文)
- 1-4 修正 R/D (ホンジュラス) (英文・西文)
- 1-5 修正 R/D (パナマ) (英文・西文)
- 1-6 修正ミニッツ (CEPREDENAC 調整事務局) (英文・西文)
- 2-1 ニカラグアの実施機関と署名した R/D (英文)
- 2-2 ニカラグアの実施機関と署名した R/D (西文)
- 3 主要面談者リスト
- 4 評価グリッド
- 5-1 合同レビューレポート (英文)
- 5-2 合同レビューレポート (西文) ANNEX 2 以降は英文版と同じなので添付省略
- 5-3 合同レビューレポートを承認するミニッツ
- 6-1 PDM 修正の合意に関するミニッツ (2010 年 1 月 21 日)
- 6-2 修正版 PDM の日本語仮訳
- 7 現地コンサルタントによる事前データ収集結果
- 8 プロジェクトの効果発現事例 (エルサルバドル ラス・オハス村の早期警戒避難)

## 略 語 表

略語	正式名	日本語表記
CEPREDENAC	Centro de Coordinación para la Prevención de los Desastres Naturales en América Central	中米防災センター
PRRD	Plan Regional para la Reducción de Riesgo a Desastres 2006-2015	中米防災 10 ヶ年計画
PCGIR	Política Centroamérica de Gestión Integral del Riesgo de Desastres	中米総合防災政策
SICA	Sistema de la Integración Centro Americana	中米統合機構
R/D	Record of Discussions	討議議事録
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
DIG	Disaster Imagination Game	災害図上訓練
CNE	Comisión Nacional de Prevención de Riesgos y Atención de Emergencias	国家災害対策緊急委員会 (コスタリカ)
CONRED	Coordinadora Nacional para la Reducción de Desastres	国家防災調整局 (グアテマラ)
COPECO	Comisión Permanente de Contingencias	災害対策常設委員会 (ホンジュラス)
SINAPRED	Sistema Nacional para la Prevención, Mitigación y Atención de Desastres en Nicaragua	国家防災機構 (ニカラグア)
SINAPROC	Sistema Nacional de Protección Civil	内務省市民防災機構 (パナマ)
SNET	Servicio Nacional de Estudios Territoriales	国家国土研究所 (エルサルバドル)
CRID	Centro Regional de Información sobre Desastres	中米災害情報センター
INETER	Instituto Nicaragüense de Estudios Territoriales	ニカラグア国土調査院
PTWC	Pacific Tsunami Warning Center	太平洋津波警報センター





## 評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：中米 6 カ国（コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ）	案件名：中米広域防災能力向上プロジェクト “BOSAI”
分野：防災	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部水資源・防災グループ	協力金額（中間レビュー時点）：約 2.6 億円
協力期間 (R/D) 2007 年 5 月 30 日～ 2012 年 5 月 29 日	先方関係機関： コスタリカ国家災害対策緊急委員会（CNE）、エルサルバドル市民防災局（Civil Protection）、グアテマラ国家防災調整局（CONRED）、ホンジュラス災害対策常設委員会（GOPECO）、ニカラグア国家防災機構（SINAPRED）、パナマ内務省市民防災機構（SINAPROC）、中米防災センター（CEPREDENAC）調整事務局
	日本側協力機関：
	他の関連協力： 課題別研修「中米防災対策」、メキシコ第三国研修「市民安全と防災」、コスタリカ、エルサルバドル青年海外協力隊員派遣（村落開発普及員）、「中米広域防災実施体制強化（広域）」分野個別専門家派遣
1-1 協力の背景と概要	
<p>中米地域では、風水害、土砂災害、地震、火山災害など多様な自然災害のリスクを抱え、これら自然災害による人的・経済的損失が同地域の開発にとって大きな阻害要因のひとつとなっている。</p> <p>かかる背景の下、中米各国は 2005 年に我が国に対し、コミュニティ、地方レベルの防災能力向上に重点を置いた技術協力を要請してきた。要請を受け、JICA は 2006 年 9 月から 10 月にかけて事前調査を実施して協力の基本計画づくりを行い、2007 年 4 月、5 月に対象各国との討議議事録（R/D）の署名を経て 2007 年 5 月 30 日から 5 年間の計画で中米広域防災能力向上プロジェクト “BOSAI” を開始した（開始当初は、ニカラグアを除く 5 カ国を対象とし、ニカラグアは 2008 年 12 月からプロジェクトに参加した）。</p> <p>プロジェクトは、対象各国において、いくつかのコミュニティ及びコミュニティを管轄する地方自治体（主として市レベル）を選定し、防災能力の向上を図るための様々なパイロット事業を中央レベルの国家防災機関と協力して実施している。そしてこれらのパイロット事業の実施を通じて得られた知識・経験や、パイロット事業のために導入・開発したコミュニティ防災の推進に役立つ技術、手法、教材等を、防災分野の地域専門機関である CEPREDENAC の機構を通じて域内で交換・共有することにより、中米地域全体におけるコミュニティや地方自治体の防災力向上を目指している。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標	
コミュニティ防災にかかる情報、経験、手法等が、中米域内の異なる地域間で共有され、活用される。	

<p>(2) プロジェクト目標</p> <p>対象コミュニティ及び対象自治体の防災能力が向上するとともに、各国防災関連機関、及び CEPREDENAC 調整事務局のコミュニティ防災を推進する能力が強化される。</p> <p>(3) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 住民、住民組織及び自治体の協働により、対象コミュニティにおける防災体制が強化される。</li> <li>2 対象コミュニティにおける防災知識が向上する。</li> <li>3 防災の目標、施策、具体的活動などが対象自治体の計画に含まれるようになる。</li> <li>4 中米各国における国の防災関連機関および CEPREDENAC 調整事務局において、コミュニティ防災を推進する能力が強化される。</li> <li>5 コミュニティ防災に係る情報、経験、手法を普及する体制が構築される。</li> </ol> <p>(4) 投入（中間レビュー時点）</p> <p>【日本側】総投入額：約 2.6 億円</p> <p>長期専門家 4 名 短期専門家 11 名 研修員受入 4 名</p> <p>機材供与 約 17 百万円 ローカルコスト負担他 約 1.2 億円（2009 年度の計画額含む）</p> <p>【中米側】</p> <p>カウンターパート配置 89 名 ローカルコスト負担（金額は特定できない）</p> <p>専門家事務所の提供（エルサルバドル）</p>			
<p>2. レビュー調査団の概要</p>			
調査者	<p>（担当分野：氏名 職位）</p> <p>【日本側】</p> <p>団長/総括：金子健二 JICA エルサルバドル事務所次長</p> <p>コミュニティ防災：小村隆史 富士常葉大学環境防災学部 准教授</p> <p>協力計画：佐藤一郎 JICA 地球環境部水資源・防災グループ防災第二課</p> <p>評価分析：西村善彦 (株)シー・ディー・シー・インターナショナル</p> <p>通訳：前山真吾 (財)日本国際協力センター (JICE)</p> <p>【中米側】</p> <p>団長/総括：Ivan Morales CEPREDENAC 調整事務局 事務局長</p> <p>評価分析：Vinicio Mendez CEPREDENAC 調整事務局 土地利用管理コーディネーター</p>		
調査期間	2010 年 2 月 15 日～2010 年 3 月 14 日	調査種類	中間レビュー
<p>3. 評価結果の概要</p>			
<p>3-1 実績の確認</p> <p>(1) プロジェクト目標の達成状況</p> <p>プロジェクト目標の達成度は中間点としては中程度であり、今後の活動により協力期間内の目標達成が見込める。市レベル及びコミュニティレベルにおけるプロジェクト目標の達成度は比較的高いが、国レベル及び中米地域レベルの達成度は高いとは言えない。従って、CEPREDENAC 調整事務局、及び各国の国家防災機関の更なるコミュニティ防災推進能力の開発が求められる。</p> <p>(2) 成果の達成状況</p> <p>・成果 1 の達成度は高い。対象コミュニティはコミュニティレベルでの防災対策のための基本的要件を概</p>			

ね満たしている。今後さらに、信頼できる災害警報をコミュニティがタイムリーに得ることができるようにするための支援が求められる。

- ・成果2の達成度は、現時点では高いと判断することはできない。対象コミュニティで防災意識向上・防災教育活動が実施されているという記録は少ない。しかし、これは活動が実施されていないということも必ずしも意味しておらず、コミュニティレベルでの活動の文書化・報告が不足していることが原因である可能性もある。
- ・成果3の達成度は概ね高い。調査したほとんどの対象市において防災計画が備わっている。その多くは市の計画の中に防災対策を組み込む仕組みを有しており、市から課題別研修「中米防災対策」に参加した職員（帰国研修員）がそのプロセスにおいて重要な役割を担っている場合が多い。
- ・成果4の達成度は高い。防災に関する各種の手法、ツール、技術が開発され、中米地域内で共有されている。対象国の国家防災機関におけるプロジェクト計画及び運営管理能力は、年間活動計画（APO）の策定・実施を通して向上している。しかしながら年間活動計画の進捗をモニタリング、文書化、報告する仕組みができておらず、今後この課題に取り組むために努力を要する。
- ・成果5の達成度は概ね高い。情報や経験の交換を目的としてJCC会議、技術W/S、地域防災フォーラム等の活動が行われている。CEPRENACは地域内での情報の共有と発信のための仕組みを構築中である。プロジェクトの残り期間で取り組む必要があるのは、情報の共有と発信のための帰国研修員のネットワークを地域及び対象国の両方で活用できるようにすることである。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性：高い

中米地域は自然災害に対して脆弱であり、プロジェクト開始から中間レビューまでの3年弱に限ってみても、多くの自然災害に見舞われている。中米地域、国、市及びコミュニティの各レベルにおけるプロジェクト関係者は、このような高い災害脆弱性を認識しており、防災及びプロジェクトの活動に対して強い関心を持っている。従って、本プロジェクトは受益者のニーズに合致している。

また、プロジェクトは、中米防災10カ年計画（PRRD 2006-2015）、中米統合防災政策（PCGIR）と合致しており、またこれらを踏まえて策定されている各国の防災政策・計画とも合致している。

#### (2) 有効性：中程度

現時点でプロジェクトの有効性を十分に評価することは困難であるが、プロジェクトの有効性が十分に高いとは言いがたい。プロジェクト目標の指標3の達成度に見られるように、地域・国レベルの機関のコミュニティ防災推進能力の開発が十分なレベルに達していないことが、主な原因である。しかしながら、中米地域内各国間のコミュニティ防災に関する情報・経験の普及・共有体制が今後さらに強化されれば、プロジェクト目標の達成度が向上し、それに応じて有効性が高まることが期待できる。

#### (3) 効率性：概ね高い

部分的に達成が遅れている成果指標はあるものの、残りのプロジェクト期間の活動により達成可能と考えられる。同様のプロジェクトを対象6カ国それぞれで実施する場合に比べ、コスト効率性は高いと考えられる。今後プロジェクトの中で得られた技術、知識、経験等を各国間で共有する仕組みを強化すれば、効率性はより高まるであろう。また、課題別研修や、第三国研修、JOCVとの連携は、それぞれの事業を単体で実施することで得られる効果以上の付加価値を生み出している。ただし、プロジェクトの

関係者・関係機関の数が極めて多く、調整・情報共有コストの大きさが効率性のマイナス要因として作用する恐れがあり、その影響を緩和するためには、関係者・関係機関間の調整のための効率的なコミュニケーションの仕組みの構築に取り組む必要がある。

#### (4) インパクト：中程度

中間レビュー調査時点でインパクトを測ることは困難であるが、プロジェクトの成果が直接の協力対象コミュニティ以外にも波及している事例が確認されており、上位目標の達成に寄与し、インパクトを生み出しつつあると考えられる。

#### (5) 自立発展性：やや高い

自立発展性を確保できる見通しは概ね高いが、プロジェクトの残り期間の取り組みに依るところが大きい。政策面では、「妥当性」の項で述べたとおり、中米地域及び各国の防災政策・計画と合致しており、これらが維持されるため自立発展性は保たれると判断される。技術面では、対象地域の技術水準や費用負担能力に合った適性技術の開発・普及に取り組んでいることから自立発展性に大きな問題は無いと考える。組織・財政面での自立発展性が、プロジェクト全体の自立発展性を左右すると思われ、国家防災機関の人員・予算の不足や、数年おきに起こる政権交替による人事異動が自立発展性の不安要因である。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

該当なし。

#### (2) 実施プロセスに関すること

- ・課題別研修「中米防災対策」コースの帰国研修員が、各国でのプロジェクト活動推進の大きな原動力となっている。
- ・コスタリカ及びエルサルバドルでは、青年海外協力隊員との連携により、隊員がコミュニティレベルでのプロジェクト活動の円滑な実施を支援していることに加え、プロジェクトの対象外のコミュニティへの成果普及にも貢献している。
- ・2010年2月に実施した各国防災機関の長官、局長クラスの幹部を対象としたカウンターパート研修は、日本の防災やコミュニティ防災の重要性等に関するこれら幹部の理解を深め、プロジェクトへの取り組み姿勢を大きく改善させた。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

- ・該当なし

#### (2) 実施プロセスに関すること

- ・国、自治体のいずれにおいても数年おきに政権交代による大幅な人事異動が発生し、業務の引継ぎも十分に行われなため、プロジェクト活動や成果の継続性・持続性にマイナスの影響を与えている。
- ・プロジェクトの関係機関が極めて多いため、関係機関間の調整・情報共有、プロジェクト全体の活動モニタリングなどが難しい。

### 3-5 結論

プロジェクトは、様々なプラスの効果を現し始めており、期待される各成果の達成度は概ね高いと言える。現時点でプロジェクト目標の達成度は中程度であるが、残りの協力期間で達成度が高まっていくことが期待される。

プロジェクトの妥当性は高く、効率性と自立発展性は概ね高い。有効性とインパクトについて現時点で高いと判断することは困難であるが、残りの協力期間で大きく改善する見込みはある。本プロジェクトが広域協力であることによる付加価値が、妥当性、効率性、インパクトの観点において見られた。

プロジェクトは、基本計画と実施体制に大幅な変更を加える必要はないと判断される。

### 3-6 提言

#### (1) プロジェクトの持続可能性を確保するための方策

- 1) CEPREDENAC 調整事務局は、中米地域の防災推進に寄与する手法、ツール、技術等を管理する情報データベースを整備中であるが、同データベースを中米各国にある既存の防災情報データベースとネットワーク化し、ユーザーからアクセスしやすくするとともに、電子媒体になっていない資料や教材に来訪者が直接触れて使ってみることができる閲覧・展示スペースを設置すべきである。
- 2) 各国の国家防災機関は、プロジェクトの終了時を見据え、本プロジェクトの枠組みの中で実施される様々な防災活動への投入予算とコミュニティ防災の推進に携わる人員の増強に努めるべきである。
- 3) コミュニティ防災の推進活動は、学校教育、土地利用・都市開発計画、保健・衛生普及事業、マスメディアの報道や大学の研究等、防災以外の他セクターの活動や事業の中に組み込んでいくべきであり、これら活動・事業の実施機関をプロジェクト活動に参画させるべく働きかけるべきである。

#### (2) 各国の国家防災機関におけるプロジェクトへの組織的な取組みの強化

各国の防災機関は、本プロジェクトへのオーナーシップを一層高め、本プロジェクトの理念や精神をそれぞれの組織文化に取り込んでいくよう努めるべきである。本プロジェクトの活動を、それぞれの機関の通常業務の中に組み込み、組織内の様々な部署が協働しながら組織として一体的に取り組む体制を取るべきである。

#### (3) 対象コミュニティへの継続的な支援のための自治体の能力強化

コミュニティの能力開発には長い期間を要し、コミュニティが独力で防災活動を継続できるようになるまでは、コミュニティへの十分なフォローアップの支援が不可欠である。従って、各国の国家防災機関は、これらのコミュニティを管轄する自治体の能力強化に努め、自治体がコミュニティに継続的な支援を提供できるようにしなくてはならない。

#### (4) プロジェクトの成果・効果の広報・普及の強化

プロジェクトは、目に見える成果や効果を生み出し始めていることから、プロジェクトの成果・効果を積極的に広報し普及すべきであり、そのためにプロジェクトの進捗や成果を適切に記録・報告する体制を整えることが不可欠である。また、日本の防災を理解し、様々な地域・分野で活躍している防災分野本邦研修の帰国研修員を、プロジェクトの成果・効果の広報・普及エージェントとして活用すべきである。

#### (5) プロジェクト管理面の効率化の改善

プロジェクト活動の実施を加速し、プロジェクトの効果を高めるため、すべてのプロジェクト関係者は、連携・調整や資金管理を含む運営管理体制の効率化に努めるべきである。

### 3-7 教訓

広域協力には、既に述べたような利点があるが、他方で極めて多くの関係機関が参加することから、関係機関間の調整と情報共有に多大な努力を必要とし、プロジェクトの予算執行管理も複雑となる。従って、通常の二国間協力と比較して、プロジェクトチームの運営管理部門により多くのリソースを配分する必要がある。

他方で、広域協力を、関連する分野の地域国際機関と協力して実施することにより、地域国際機関が持っている域内各国間の調整・情報共有の機能、ネットワーク、ノウハウを活用することができ、関係機関間の調整・情報共有に係るプロジェクトの負担を軽減することができる。

# 第1章 中間レビュー調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯・目的

### (1) 経緯

中米地域では、風水害、土砂災害、地震、火山災害など多様な自然災害のリスクを抱え、これら自然災害による人的・経済的損失が同地域の開発にとって大きな阻害要因のひとつとなっている。かかる状況に対処するため、中米6カ国は、災害に強い社会を共に築くことを目的として、1987年に防災分野の地域協力促進機関として発足した中米防災センター（CEPREDENAC）を、1993年に中米統合機構（SICA）傘下の防災分野地域専門機関として組み込んだ。1998年に中米地域に甚大な被害をもたらしたハリケーン「ミッチ」の後、中米6カ国（コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ）の大統領は災害に強い社会づくりへの決意を新たに「グアテマラ宣言」を採択し、これを受けてCEPREDENACが中心となり、中米防災5カ年計画（2000年～2004年）が策定された。続いて、中米防災10カ年計画（2006年～2015年）が策定され、同計画においては、コミュニティレベルでの防災力強化、防災分野の人材育成の促進、防災に配慮した地域開発計画の策定等が、重点課題として掲げられている。

このような背景の下、ニカラグアを除く中米5カ国は2005年に我が国に対し、コミュニティ、地方レベルの防災能力向上に重点を置いた技術協力を要請してきた。要請を受け、JICAは2006年1月から2月にかけて中米広域防災プロジェクト形成調査団を派遣し、各国から提出された要請の内容、各国の防災の現状などの調査を行い、中米地域の広域防災協力の枠組みについて検討した。続いて2006年9月から10月にかけてプロジェクトの事前調査を実施して協力の基本計画づくりを行い、2007年4月、5月に対象各国との討議議事録（R/D）の署名を経て2007年5月30日から5年間の計画で中米広域防災能力向上プロジェクト“BOSAI”を開始した（以下、「本プロジェクト」）。

本プロジェクトは、中米6カ国を協力対象国として当初から計画されていたが、協力開始時まではニカラグア政府から正式要請書が提出されなかったためニカラグアを除く5カ国を対象に協力を開始した。プロジェクトの開始後に、中米側からプロジェクトの実施体制を変更することにつき提案があり、日本側との協議を経て合意内容を修正R/D（CEPREDENAC調整事務局とは修正ミニッツ）に取りまとめ、2008年2月から3月にかけて署名した（付属資料1-1から1-6を参照）。ニカラグア政府からは2007年度に正式要請書が提出され、ニカラグアのプロジェクト実施機関とJICAとの協議を経て、2008年12月2日にR/Dに署名し（付属資料2-1、2-2参照）、同日からニカラグアが本プロジェクトの参加国に加わった。

今般、本プロジェクトの協力期間の中間地点を迎えたことから、CEPREDENAC事務局と合同による中間レビュー調査団を派遣することとなった。

(2) 中間レビュー調査の目的

- 1) JICA 事業評価ガイドラインに基づきプロジェクトの中間レビューをおこなう。
- 2) プロジェクトの残りの協力期間における対応について提言をとりまとめる。
- 3) 中間レビュー結果及び提言の内容を合同レビューレポートに取りまとめ、中米側関係者との合同レビュー委員会において協議をおこない、中米側関係者と合意形成したうえで、ミニッツ署名により確認する。

1-2 調査団の構成および調査日程

(1) 調査団の構成

本調査においては、日本側と中米側の代表（CEPREDENAC 調整事務局）による合同の調査とするため、双方からなる合同レビューチームを構成して調査を行った。

なお、2月28日から3月14日までの調査期間は、本プロジェクトとの連携事業である JICA 兵庫実施の課題別研修コース「中米防災対策」に係るフォローアップ調査団と合同で調査を行った。

1) 日本側

氏名	担当	所属	派遣期間
金子 健二	団長／総括	JICA エルサルバドル事務所 次長	現地参団
小村 隆史	コミュニティ 防災	富士常葉大学環境防災学部 准教授	2010年3月1日 ～3月14日
佐藤 一郎	協力計画	JICA 地球環境部水資源・防災グループ 防災第二課	2010年2月21日 ～3月8日
西村 善彦	評価分析	株式会社シー・ディー・シー・インター ナショナル	2010年2月15日 ～3月14日
前山 真吾	通訳	(財) 日本国際協力センター (JICE)	2010年2月15日 ～3月14日

2) 中米側

氏名	担当	所属
Iván Morales	団長／総括	CEPREDENAC 調整事務局 事務局長
Vinicio Méndez	評価分析	CEPREDENAC 調整事務局 土地利用管理コーディネーター

(2) 調査団日程

	日付			行程	宿泊
1	2月	15	月	日本側調査団本邦発	
2		16	火	エルサルバドル着 JICA エルサルバドル事務所との打合せ プロジェクト長期専門家、及び事前データ収集を実施した現地コンサルタントとの会議	サンサルバドル



3		17	水	プロジェクト長期専門家、及び事前データ収集を実施した現地コンサルタントとの会議	サンサルバドル
4		18	木	ホンジュラスへ陸路移動 ナマシグエ市現場調査	チョルテカ
5		19	金	チョルテカ市、エル・トゥリウンフォ市現場調査	チョルテカ
6		20	土	エルサルバドルへ陸路移動	サンサルバドル
7		21	日	パナマへ空路移動	パナマシティ
8		22	月	JICA パナマ支所との打合せ 経済財政省表敬 SINAPROC との会議 日本大使館表敬	パナマシティ
9		23	火	SINAPROC との会議 カピラ郡現場調査	パナマシティ
10		24	水	コスタリカへ空路移動	サンホセ
11		25	木	JICA コスタリカ支所との打合せ CNE との会議 カーニャス市へ陸路移動	カーニャス
12		26	金	カーニャス市との会議 カーニャス市、ティララン市現場調査	カーニャス
13		27	土	サンホセ市へ陸路移動 エルサルバドルへ空路移動	サンサルバドル
14		28	日	合同レビューレポート案作成	サンサルバドル
15	3月	1	月	JICA エルサルバドル事務所との打合せ 市民防災局との会議 サラゴサ市現場調査 SICA 及び JICA 長期専門家（中米統合機構広域協力アドバイザー）との会議	サンサルバドル
16		2	火	サン・ペドロ・マサワット市、サンルイスタルパ市 現場調査	サンサルバドル
17		3	水	合同レビューレポート案作成	サンサルバドル
18		4	木	合同レビュー委員会	サンサルバドル
19		5	金	合同レビュー委員会 合同レビューレポート署名 在エルサルバドル日本大使館報告	サンサルバドル
20		6	土	資料整理	サンサルバドル
21		7	日	ニカラグアへ空路移動 レオン市へ陸路移動	レオン

22		8	月	レオン市現場調査 マナグア市へ陸路移動	マナグア
23		9	火	JICA ニカラグア駐在員事務所との打合せ INETER との会議 SINAPRED との会議 グアテマラへ空路移動	グアテマラシティ
24		10	水	CEPREDENAC 調整事務局との会議 JICA グアテマラ駐在員事務所との打合せ フェゴ火山地域現場調査	アンティグア
25		11	木	フェゴ火山地域現場調査	アンティグア
26		12	金	CONRED との会議 JICA グアテマラ駐在員事務所への報告 日本側調査団グアテマラ出発	
27		13	土		
28		14	日	日本側調査団日本帰着	

(3) 主要面談者

付属資料3のとおり。

## 第2章 中間レビューのプロセス

### 2-1 レビュー手順

本調査では、JICA 事業評価ガイドラインに基づき、まず「プロジェクト実績・実施プロセス」と「5 項目評価」について評価グリッドを作成した。（評価グリッドは付属資料4を参照）。

現地調査では、合同レビューチームがカウンターパート、日本人専門家及びその他の関係者に対して聞き取り調査を行い、合同レビューレポートのドラフトを作成し、2010年3月4及び5日にサンサルバドルにおいて開催した合同評価委員会で説明した。この合同レビューレポートのドラフトに対して各国からの意見を聴取の上、修正したものに合意し、2010年3月5日、合同レビューレポートに日本側、中米側の調査団長が署名するとともに（付属資料5-1、5-2参照）、レポートの内容を受入れる旨を記載したミニッツに中米6カ国の実施機関代表、CEPREDENAC 調整事務局長、及び日本側を代表してプロジェクトのチーフアドバイザーが署名した（付属資料5-3参照）。

### 2-2 PDM

本プロジェクトでは、2006年9月から10月の事前調査により作成したPDM（本プロジェクトの事前調査・実施協議報告書を参照）に基づき実施してきた。しかし、PDMは、評価指標及び指標データの入手手段の欄の記載が欠けていたため、中間レビュー調査の実施に先立ち、PDMの修正について日本側、中米側で協議を行い、2010年1月21日に新たなPDMについて合意するミニッツに中米側、日本側双方で署名した（付属資料6-1参照。また、PDMの日本語仮訳を付属資料6-2に示す）。その際、新しいPDMの原案は日本側から提示したが、中米各国の代表者による活発な議論を通じて、原案は大幅に修正され、完成に至った。

なお、ホンジュラスのCOPECOの代表者も2010年1月21日の協議に出席しており、内容について了承していたが、2009年6月に発生したクーデターにより、その時点では暫定政権下にあったため、ホンジュラスの代表はミニッツに署名しなかった。以降、本報告書では、特に注意書の無い限り、「PDM」は、このときに合意された新しいPDMを指すこととする。

PDMの主な修正点は、欠けていた評価指標、指標データの入手手段の欄に記入したことに加え、R/Dに付属するマスタープランに記載された上位目標、プロジェクト目標、成果、活動の内容を基礎として、プロジェクト前半の経験・実績を踏まえて表現・内容を修正した。

### 2-3 プロジェクト独自のレビューの視点

本調査では、JICA 事業評価ガイドラインに基づく通常の評価の視点に加えて、本プロジェクトの特徴を考慮し、以下の視点からのレビューも行った。

#### (1) 広域協力

本プロジェクトは、防災分野の地域国際機関である CEPREDENAC と協調しつつ、協力対象6カ国に対して同等規模の協力を同時に実施している点で、他に類を見ないプロジェクトであることから、このような広域協力の実施手法の利点、困難な点などを確認する。

また、JICA の技術協力の諸制度は、二国間協力を念頭に置いて構築されているため、本プロジェクトのような広域協力を実施するうえでは、不都合が生じるケースが見られたことから、

将来、同様の広域協力を計画する際に留意すべき点を教訓として取りまとめる。

(2) 他事業との連携

本プロジェクトは、課題別研修「中米防災対策」コース、メキシコにおける第三国研修コース、コスタリカ及びエルサルバドルへの青年海外協力隊派遣、並びに中米広域の防災分野個別専門家派遣（2008年8月まで）等の各事業と連携して実施してきたことから、他事業との連携による効果、及び問題点等を確認する。

(3) コミュニティ防災の効果発現事例

2009年11月にエルサルバドルで発生した豪雨災害では、プロジェクトの対象コミュニティにおいて、プロジェクト活動を通じて構築した災害予警報体制が適切に機能したことで被害の軽減に役立ったとの報告があることから、かかる事例についてより詳細に調査するとともに、この他にも実際の災害において平時のコミュニティ防災活動が効果を発揮した具体的事例を調査し、コミュニティ防災の効果発現の事例として取りまとめる。

2-4 現地コンサルタントによる事前データ収集

本調査に先立ち、プロジェクトの活動が行われた自治体（市）及びコミュニティを対象として、PDMの別紙1～3の能力評価シートに記載のチェック項目に基づき、現地コンサルタントによる事前データ収集調査を行った。時間的制約や訪問先の都合により、全ての対象自治体、コミュニティを調査することはできなかったが、表2-1のとおり全対象の72%の自治体（市）及び98%のコミュニティを訪問し、聴き取り調査を行った。

表 2-1 事前データ収集調査を行った自治体及びコミュニティの数

対象国	調査した市 / 全プロジェクト対象市	調査したコミュニティ / 全プロジェクト対象コミュニティ
コスタリカ	3/6	6/6
エルサルバドル	5/5	5/5
グアテマラ	4/5	19/20
ホンジュラス	4/5	9/9
ニカラグア	1/1	3/3
パナマ	1/3	6/6
合計	18/25	48/49

プロジェクトが対象とする市及びコミュニティについては文書による明確な定義がなされていないため、本調査では実際にプロジェクトの活動が行われた実績のある市及びコミュニティを対象自治体・コミュニティと定義し、これらを対象として事前データの収集を行った。データの集計結果を付属資料7に示す。

## 第3章 実績と実施プロセスの確認

### 3-1 プロジェクト実施体制

本プロジェクトは、CEPREDENAC 理事会に理事を送り出している中米 6 カ国の国家防災機関、及び CEPREDENAC 調整事務局を中米側のプロジェクト実施機関としている。また、対象各国においてプロジェクト活動を実施するにあたっては、防災関連の研究機関や大学、活動サイトの地方自治体、コミュニティ等、様々な機関と協力している。

プロジェクトの開始当初は、事前調査での中米側との協議結果に基づき、CEPREDENAC 調整事務局長をプロジェクト・ダイレクターとし、各国の国家防災機関から 1 名ずつプロジェクト・マネージャーを指名することとしていた。しかし、その後、各国の国家防災機関と JICA との間で二国間の R/D を締結する交渉の過程で、各国のプロジェクト活動を円滑に進めるためには国家防災機関の長のコミットメントが必要との認識から、各国防災機関の長がプロジェクト・マネージャーに就くことになり、すると CEPREDENAC 理事会の理事である各国防災機関の長が、理事会の下部機関である CEPREDENAC 調整事務局の長よりもプロジェクトの実施体制の枠組内では低い地位につくことになってしまい、各国防災機関の長からは再検討の要望が相次いだ。そこで、各国でプロジェクト・ダイレクターとプロジェクト・マネージャーを 1 名ずつ配置することとし、国家防災機関の長がプロジェクト・ダイレクターに、ダイレクターの指名する別の国家防災機関職員 1 名がプロジェクト・マネージャーに就くこととし、CEPREDENAC 調整事務局長は「地域コーディネーター」という役割を本プロジェクトの実施体制の中で担うことになった。この新しいプロジェクト実施体制を正式なものとするため、2008 年 2 月から 3 月にかけて各国の国家防災機関及び CEPREDENAC 調整事務局との間で修正 R/D (CEPREDENAC 調整事務局の場合はミニッツ) に署名した (付属資料 1-1 から 1-6 を参照)。

プロジェクトの開始当初、事前調査で決定した方針に従い、長期滞在型の専門家を 2 名 (うち 1 名は派遣期間 11 ヶ月の短期専門家) 派遣し、1 名はパナマ、1 名はエルサルバドルに拠点を置いて活動することとした。また、本プロジェクトと連携して活動を実施した中米広域の防災分野個別専門家 (正確な専門家の指導科目は「中米広域防災実施体制強化 (広域)」) は、パナマに拠点を置いた。しかし、実際にプロジェクト活動を実施していく中で、専門家が別々の国に拠点を置いているとコミュニケーションが不足しがちで、円滑なプロジェクト運営に支障を来し、メリットよりもデメリットの方が大きいという意見が専門家チームから出された。これを受け専門家の配置国を再検討し、専門家が各国を巡回する際に陸路及び空路による交通の便が良く、また支所や駐在員事務所よりも支援体制が整っている在外事務所の所在国であるエルサルバドルに 2 名の専門家を派遣することとした (ただし、パナマに派遣中の専門家の任期途中の任地変更は行わず、後任専門家をエルサルバドルに派遣した)。また、中米広域防災分野個別専門家の任期が 2008 年 8 月に満了した後、個別専門家が担っていた防災分野における地域内協力体制の強化支援の役割を本プロジェクトに取り込み、もう 1 名のプロジェクト長期専門家をエルサルバドルに派遣することとし、2008 年 10 月からはプロジェクトの長期専門家 3 名がエルサルバドルに拠点を置いて活動する体制となった。

他方、長期専門家が拠点を置かないエルサルバドル以外の国では、専門家が巡回して指導にあたる期間はどうしても限られるため、カウンターパートによるプロジェクト活動の実施を専門家の不在期

間でも適切に支援する体制を整えるため、各国で JICA 予算により現地コーディネーターを 1 名ないし 2 名雇用し、配置することとした。ただし、グアテマラでは、カウンターパート機関の CONRED が独自予算で現地コーディネーターを配置した。

### 3-2 投入実績

日本側、中米側の投入実績は以下のとおりである。

<日本側>

#### (1) 専門家派遣

下表のとおり、これまで延べ 15 名の専門家を派遣した。

(長期専門家)

専門家氏名	指導科目名	派遣開始日	派遣終了日
荒木田 勝	コミュニティ防災	2007.6.15	2009.8.31
堀米 昇士朗	コミュニティ防災／治水対策	2008.10.9	2010.10.8
木下 建	チーフアドバイザー	2008.3.31	2010.6.30
川東 英治	業務調整／コミュニティ防災	2009.7.14	2011.7.13

(短期専門家)

専門家氏名	指導科目名	派遣開始日	派遣終了日
大井 英臣	チーフアドバイザー／ コミュニティ防災	2007.5.29	2008.4.30
小村 隆史	災害図上訓練 (DIG)	2008.2.27	2008.3.17
福岡 浩	コミュニティ地すべり対策	2008.3.1	2008.3.17
片田 敏孝	津波防災	2008.7.26	2008.8.18
片田 敏孝	津波防災	2009.1.30	2009.2.14
小川 雄二郎	コミュニティ防災計画	2009.2.16	2009.3.8
小村 隆史	災害図上訓練 (DIG)	2009.2.24	2009.3.16
小村 隆史	災害図上訓練 (DIG)	2009.8.22	2009.9.3
片田 敏孝	コミュニティ防災 (津波)	2009.12.7	2009.12.15
山本 春行	小規模構造物対策	2010.1.3	2010.1.11
福岡 浩	土砂災害対策	2010.1.14	2010.1.26

#### (2) 研修員受入

プロジェクトのカウンターパート研修 (国別研修) としてはこれまでに 4 名を受入れたのみであるが、JICA 兵庫国際センターが実施する課題別研修「中米防災対策」コースと連携し、プロジェクトの協力期間中に実施された 3 回のコースに計 39 名を参加させた。毎年の研修コースには、CEPRENAC 調整事務局から 1 名と、中米 6 カ国からそれぞれ 2 名ずつ (うち 1 名は国家防災機関の職員、もう 1 名は地方レベルのプロジェクト関係者) 参加させることを原則とした。カウンターパート研修と課題別研修に参加した研修員のリストは、付属資料 5-1 の合同レビューレポート (英文) ANNEX 4 を参照。なお、課題別研修「中米防災対策」コー

スは、2000 年度からフェーズ I を実施しており、現在はフェーズ II を実施しているが、本プロジェクトの協力期間の開始前に同コースに参加したプロジェクト関係者も現在多く活躍している。

また、日本がかつて設立に協力したメキシコ国立防災センター（CENAPRED）が実施機関となって実施している第三国研修「市民安全と防災」コースに 25 名が参加した。これらの研修コースの他に、在外事業強化費を用いて 3 名のプロジェクト関係者を津波防災に関する視察のためタイと日本に派遣した。これらの詳細についても、付属資料 5－1 の合同レビューレポート（英文）ANNEX 4 を参照。

### (3) 機材供与

これまでに災害早期警戒システム用機材、事務機器、車両等の機材を供与した。投入した供与機材費は、約 1,700 万円である。供与した機材の詳細は付属資料 5－1 の合同レビューレポート（英文）ANNEX5 を参照。

### (4) 在外事業強化費

専門家の域内出張旅費、中米地域レベルのセミナー／ワークショップ経費などを在外事業強化費から支出した。

プロジェクトに対するこれまでの日本側の投入金額実績は、付属資料 5－1 の合同レビューレポート（英文）ANNEX 6 のとおりであるが、この実績額には課題別研修「中米防災対策」コースやメキシコでの第三国研修「市民安全と防災」へのプロジェクト関係者参加に係る経費は含まれていない。

## <中米側>

### (1) カウンターパート

これまでに合計 89 名のカウンターパートを本プロジェクトに配置した（既に離職した者も含む）。詳細は付属資料 5－1 の合同レビューレポート（英文）ANNEX 7 参照。

### (2) ローカルコスト

中米側は、プロジェクト活動の実施に必要な各種の経費を負担しているが、正確な負担金額は記録が無いため把握できない。しかし、プロジェクト専門家からの聞き取りによると、プロジェクト開始当初に比べて、最近では中米地域レベルセミナーの参加者を送迎するバスの借上げ費用をコスタリカの CNE が負担したり、パナマの SINAPROC がプロジェクト活動に活用する車両を追加で割り当てたりと、中米側の投入額は増加傾向にある。各国の負担内容については、付属資料 5－1 の合同レビューレポート（英文）ANNEX 7 を参照。

## 3-3 活動実績

中間レビュー時点までの活動実績は以下のとおり。

活動No.	活動項目	実績
(成果 1)		
住民、住民組織及び自治体の協働により、対象コミュニティにおける防災体制が強化される。		
1-1	対象コミュニティにおいて、防災組織を確立する。	調査した 48 コミュニティのうち 47 コミュニティ (98%) において、防災組織が設立された。

1-2	対象コミュニティにおいて、コミュニティ主導で災害リスクアセスメントを実施する。	調査した 48 コミュニティのうち 38 コミュニティ (79%) において、コミュニティ主導による災害リスクアセスメントが実施された。
1-3	対象コミュニティにおいて、リスクマップを作成する。	調査した 48 コミュニティのうち 31 コミュニティ (65%) において、リスクマップが作成された。また、未作成のコミュニティのうち 14 コミュニティにおいて作成途中であり、これらが完成すると計 45 コミュニティ (94%) となる。 ただし、リスクマップが作成された 31 コミュニティのうち、住民に対してマップが適切に周知されているコミュニティは 3 カ所 (約 10%) に留まっている。
1-4	対象コミュニティにおいて、適切な早期警報システムを構築する。	調査した 48 コミュニティのうち 38 コミュニティ (79%) において、早期警戒システムの構築に取り組んでいる。しかしながら、コスタリカのマラビジャ地区以外は、未だ構築中である。 他方、調査した 48 コミュニティのうち 45 コミュニティ (94%) において、災害に関する情報を無線等何らかの形で住民に知らせる手段を有している。従って、信頼しうる災害情報を得る手段さえあれば、ほとんどのコミュニティで早期警戒システムを構築することができるということを示唆している。 2009 年 11 月のエルサルバドルにおけるハリケーン“Ida”による水害の際、被災地サン・ペドロ・マサワット市に勤める職員 (課題別研修「中米防災対策」コースの帰国研修員) が、ヒボア川上流における増水の情報を受け、下流にあるコミュニティに伝達した。その中のひとつであるラス・オハス村で、本プロジェクトにより設置した警報用サイレンが稼働し、大規模な洪水が村を襲う前に住民が避難でき、結果として犠牲者を出さなかった。(詳細は付属資料 8 参照)
1-5	上記対象コミュニティの活動を踏まえ、コミュニティの防災計画を策定する。上記活動のプロモーターとして帰国研修員、市および国レベルでの防災担当職員を取り込む。	調査した 48 コミュニティのうち 26 コミュニティ (54%) において、コミュニティの防災計画を策定済みである。 また、未策定のコミュニティのうち 16 コミュニティにおいても現在策定に取り組んでおり、これらが完成すると 42 コミュニティ (88%) がコミュニティの防災計画を持つことになる。 ただし、活動 1-3 に述べたリスクマップのケースと同様、住民に対して十分に周知されているものは少なく、26 コミュニティのうち 4 箇所 (約 15%) に留まっており、リスクマップや防災計画を住民に周知する取組みが今後の課題である。
1-6	上記活動を JICA 研修事業の帰国研修員、地方自治体、国レベルの防災担当者と協力して実施し、日本での経験から得た知識、情報、手法の普及を図る。	本調査においてはこの活動項目に関して統計的な記録は得られなかったが、専門家、カウンターパート他の関係者に対するインタビューの結果、JICA 帰国研修員は概してコミュニティレベルのプロジェクト活動に積極的に関与している。
1-7	活動プロセスを記録、文書化する。	活動プロセスは、現在のところ十分に記録・文書化されているとは言い難い。今後、プロジェクト活動の記録・文書化の改善が必要である。



(成果2) 対象コミュニティにおける防災知識が向上する。		
2-1	対象コミュニティ向けの防災普及のための手法、ツール、技術を用意する。	中間レビュー時点までに、対象コミュニティでの教育・意識向上のために使用できる教材が7種作成された。
2-2	対象コミュニティにおいて、防災普及のための手法、ツール、技術を活用し、参加型ワークショップを開催する。	本プロジェクトで作成された手法、ツール、技術は、ワークショップを含むコミュニティレベルの活動に適切に活用されている。
2-3	対象コミュニティにおいて、防災普及のための手法、ツール、技術を活用し、学校教師や児童の防災知識の増進を図る。	本調査ではこの活動項目の実施状況を示すデータは確認できなかった。 ただし、グアテマラの火山周辺コミュニティにおいて、対象コミュニティ内にある学校を対象にぬり絵や火山の模型を用いた防災教育活動が行われていることが現地調査で確認された。
2-4	対象コミュニティにおいて、避難訓練を行う。	当調査時点までに避難訓練を行ったことのある対象コミュニティは、48コミュニティのうち3コミュニティ(約6%)に留まっている。
2-5	プロジェクト活動の進捗を半年ごとにモニタリングし、その結果を合同調整委員会で報告する。	プロジェクト活動の半年ごとの定期モニタリングレポートは、各国の国家防災機関に提出を求めており、第2回の合同調整委員会では定期モニタリングレポートの様式がコスタリカから提案され合意されているが、各国からのモニタリングレポートは提出されていない。活動1-7にある活動プロセスの記録・文書化にも同様のことが当てはまるが、中米では活動プロセスなどを記録・文書化することに習熟していない者が多く、活動を記録してモニタリングレポートにまとめ、提出してもらうことを周知徹底することは非常な困難を伴う。 合同調整委員会の会議は年1回開催されており、プロジェクトの進捗状況が報告されている。
(成果3) 防災の目標、施策、具体的活動などが対象自治体の計画に含まれるようになる。		
3-1	対象自治体の計画に防災を組み込むために活動、プロセスの調整を行う。	この活動の実施状況を確認するための具体的情報は入手できなかった。
3-2	対象自治体の防災担当者が本邦研修「中米防災対策」に参加する。	「中米防災対策」コースには、これまでに対象自治体の防災担当者が9名参加した。
3-3	対象自治体の防災担当者を対象として、自治体の防災計画を策定するためのワークショップを実施する。	これまでのところこの活動は実施されていない。
3-4	対象自治体は、国家防災機関と協力し、自治体の防災計画を策定する。	調査した18市のうち16市(89%)において、自治体の災害対策計画が存在する。  ※パナマの場合、SINAPROCは国家防災システムに基づき、SINAPROCの地方事務所を通して直接コミュニティでの活動を行っている。従って、自治体による防災計画の策定を期待することは困難である。

(成果4) 中米各国における国の防災関連機関および CEPREDENAC 調整事務局において、コミュニティ防災を推進する能力が強化される。		
4-1	各国防災関連機関及び CEPREDENAC 調整事務局のスタッフが、本邦研修「中米防災対策」及びメキシコでの第三国研修「市民安全と防災」に参加する。	中間レビュー時点までに、国家防災機関及び CEPREDENAC 調整事務局から、本邦研修「中米防災対策」に 23 名、第三国研修「市民安全と防災」に 25 名が参加した。詳細は付属資料 5-1 の合同レビューレポート（英文）の ANNEX4 を参照。
4-2	コミュニティ防災の推進に役立つ手法、ツール、技術を体系化、現地適応化する。	中間レビュー時点までに 4 種類のコミュニティ防災の推進に役立つ手法、ツール、技術が開発・作成された。更に 2 種類が準備中である。詳細は付属資料 5-1 の合同レビューレポート（英文）の ANNEX 8 を参照。
4-3	開発した手法、ツール、技術の活用方法に関するワークショップを、各国防災機関を対象に開催する。	これまでに、以下のワークショップが開催済みである。 - DIG (Disaster Imagination Game) : 2008 年 3 月、2009 年 3 月、2009 年 8 月 - タウンウォッチング : 2009 年 3 月 - 早期警戒システム : 2009 年 8 月
4-4	開発した手法、ツール、技術を中米地域で保管・共有する場所を確保する。	CEPREDENAC 調整事務局において、災害リスクマネジメント情報センターのシステムを、台湾の支援により構築中である。また、SINAPROC では地域内への防災情報提供のために同様の情報センターを設立中である。
(成果5) コミュニティ防災に係る情報、経験、手法を普及する体制が構築される。		
5-1	JICA 研修事業に参加した帰国研修員の同窓ネットワークを強化するため、帰国研修員のデータベースを構築し、経験の交換を目的としたセミナーを開催する。	- 各国の JICA 事務所では、防災分野に限定したものではないが、帰国研修員データベースを作成している。 - 対象国ごとの帰国研修員会合は、パナマで 1 回開かれたものを除いて開かれていない。 - 中米地域レベルの帰国研修員会合は、2010 年 3 月に第 1 回が開催された。 - 本邦研修「中米防災対策」のために毎年実施される事前研修の機会に帰国研修員が集合している。事前研修を開催した国と時期は以下のとおり。 - パナマ 2007 年 10 月 - メキシコ 2008 年 10 月 - メキシコ 2009 年 10 月
5-2	CEPREDENAC 調整事務局及び各国防災関連機関が主導して、自治体レベルの防災担当者を含む実務者間のコミュニティ防災に関する知識や教訓の交換・共有のために中米地域防災会議を開催する。	自治体職員やコミュニティ代表などを含むプロジェクト関係者が集まり、現場レベルの活動経験を共有するための第 1 回地域防災フォーラムが、2010 年 2 月にコスタリカで開催された。これまでは、国家防災機関の職員など中央レベルのプロジェクト関係者が集まって経験を共有する機会は多かったが、自治体やコミュニティレベルの関係者が多数集まる機会は始めてであり、参加者は他国の取り組みから多くを学び、また刺激を受けた。 同フォーラムはプロジェクトの残り期間も毎年開催される予定である。

5-3	年に一回、合同調整委員会の会議において、各国の国家防災機関の代表者に対して、プロジェクトの成果を説明する。	合同調整委員会（JCC）会議は、以下の通り毎年開催されてきている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2008年2月、エルサルバドル</li> <li>- 2009年3月、グアテマラ</li> </ul> 各 JCC 会議において、プロジェクトの進捗状況が報告された。
5-4	プロジェクト対象地域内で、防災への先進的な取り組みを行うモデル自治体／コミュニティにおける防災の優良事例を集めたパンフレットを作成し、各国の自治体の防災関係者に配布する。	中間レビュー時点では未実施。プロジェクトの残り期間において実施予定である。
5-5	CEPREDENAC 及び各国防災関連機関は、活動 2-1 で開発した防災普及のための手法、ツール、技術を、サンプルとしてパイロット・サイト近隣の自治体及びコミュニティに普及する。	中間レビュー時点では未実施。プロジェクトの残り期間において実施予定である。

### 3-4 成果の達成状況

#### 成果 1

住民、住民組織及び自治体の協働により、対象コミュニティにおける防災体制が強化される。

成果 1 の達成度は高い。対象コミュニティはコミュニティレベルでの防災対策のための基本的要件を概ね満たしている。今後さらに、信頼できる災害警報をコミュニティがタイムリーに得ることができるようにするための支援が求められる。

指標No.	成果指標	達成状況
1-1	全対象コミュニティの 90%以上で防災組織が存在する。	調査対象コミュニティのうち 98%に防災組織が設立されており、成果指標に到達している。
1-2	全対象コミュニティの 90%以上で災害リスクマップが作成されている。	中間レビュー時点でリスクマップを備えているコミュニティは調査対象の 65%に留まるが、作成途中のコミュニティもあり、プロジェクト期間中に成果指標に到達することが見込まれる。
1-3	全対象コミュニティの 90%以上で災害警報の伝達システムが整備されている。	調査対象コミュニティのうち 79%のコミュニティが早期警戒システムの構築に取り組んでいるが、構築が完了したコミュニティは1箇所のみである。但し、94%のコミュニティが何らかの形で災害情報をコミュニティ内で伝達する手段を既に持っている。
1-4	全対象コミュニティの 90%以上で、コミュニティの防災計画が作成されている。	調査対象コミュニティのうち 54%のコミュニティが既に防災計画を有している他、作成途中のものが 16 コミュニティあり、これらが完成すると 88%に達する。

#### 成果 2

対象コミュニティにおける防災知識が向上する。

成果 2 の達成度は、現時点では高いと判断することはできない。対象コミュニティで防災意識向上・防災教育活動が実施されているという記録は少ない。しかし、これは活動が実施されていないと

いうことを必ずしも意味しておらず、コミュニティレベルでの活動の文書化・報告が不足していることが原因である可能性もある。

指標No.	成果指標	達成状況
2-1	防災マニュアル／ガイドラインが10種類以上整備される（既存資料のスペイン語版作成も含む）。	中間レビュー時点までに7種類の防災教育・防災意識向上のための資料が作成済みである。
2-2	防災ワークショップ、セミナー等の防災関連イベントが対象コミュニティで年3回以上開催されている。	防災関連イベントが年1回以上開催されているのは、調査対象コミュニティのうち12.5%に過ぎず、成果指標の「年3回」を満していない。
2-3	学校で防災に関する活動が年1回以上開催される。	この指標の達成レベルを測るデータは本調査では得られなかった。
2-4	各対象コミュニティで避難訓練がプロジェクト期間中1回実施される。	調査対象コミュニティの中で毎年避難訓練を行っているコミュニティはなかったが、21%が「これまで1度実施した」あるいは「現在実施に向けて準備中」である。

### 成果3

**防災の目標、施策、具体的活動などが対象自治体の計画に含まれるようになる。**

成果3の達成度は概ね高い。調査したほとんどの対象市において防災計画が備わっている。その多くは市の計画の中に防災対策を組み込む仕組みを有しており、市から課題別研修「中米防災対策」に参加した職員（帰国研修員）がそのプロセスにおいて重要な役割を担っている場合が多い。

指標No.	成果指標	達成状況
3-1	対象自治体の帰国研修員は、自治体の計画に防災を関連づけるために、年間3件以上の活動を実施する	この成果指標の達成度を測るデータは得られなかったが、JICA 専門家、カウンターパートその他の関係者に対するインタビューにより、ほとんどの帰国研修員は防災の普及に積極的に関与していることが認められた。 例えば、カーニャス市（コスタリカ）に勤務する帰国研修員は、DIG ワークショップ、古タイヤ堤防の建設、住民参加による洪水被害調査などに関する手法を市内のコミュニティに普及する活動を手掛けている。これには JICA 専門家や青年海外協力隊員などの協力を得ている。
3-2	対象自治体の60%以上で、自治体の計画に防災の目標、ツール、具体的活動が含まれる。	調査した対象市の60%において、市の計画の中に防災対策を取りこむ仕組みを有しており、この成果指標に既に到達していると考えられる。防災目標、ツール、活動が実際に市の計画に組み入れられているかどうか、更に確認する必要がある。

### 成果4

**中米各国における国の防災関連機関および CEPREDENAC 調整事務局において、コミュニティ防災を推進する能力が強化される。**

成果4の達成度は高い。防災に関する各種の手法、ツール、技術が開発され、中米地域内で共有されている。対象国の国家防災機関におけるプロジェクト計画及び運営管理能力は、年間活動計画

(APO) の策定・実施を通して向上している。しかしながら年間活動計画の進捗をモニタリング、文書化、報告する仕組みができておらず、今後この課題に取り組むために努力を要する。

指標No.	成果指標	達成状況
4-1	コミュニティ防災に役立つ手法、ツール、技術が中米地域で6種類以上体系化、現地適応化される（既存の手法、ツール、技術の現地適応化も含む）。	中間レビュー時点において4種類が作成済み。更に作成中の2種類が完成するとこの成果は達成される。
4-2	コミュニティ防災に役立つ手法、ツール、技術の利用に関するW/Sが年1回以上開催される。	これまでに5回のW/Sが開催されており、この成果は既に達成されている。
4-3	コミュニティ防災推進に役立つ手法、ツール、技術に関する、中米地域共有のデータベース、及び保管スペースが確立される。	CEPREDENAC 調整事務局において、台湾の援助によるデータベース構築が予定されている。電子媒体以外の資料・教材等の管理・閲覧のスペースは、CEPREDENAC 調整事務局内に設置することを検討している。
4-4	プロジェクトの年間活動計画が、各国及び中米地域レベルで作成される。	国レベル及び地域レベルとも、2009年度年間活動計画が作成済み。現在2010年度計画を作成中である。

## 成果5

### コミュニティ防災に係る情報、経験、手法を普及する体制が構築される。

成果5の達成度は概ね高い。情報や経験の交換を目的としてJCC会議、技術W/S、地域防災フォーラム等の活動が行われている。CEPREDENACは地域内での情報の共有と発信のための仕組みを構築中である。プロジェクトの残り期間で取り組む必要があるのは、情報の共有と発信のための帰国研修員のネットワークを地域及び対象国の両方で活用できるようにすることである。

指標No.	成果指標	達成状況
5-1	国レベルの防災分野帰国研修員ネットワークの年次会合が開催される。	国レベルの帰国研修員会議は、パナマで1回行われた以外は開催されていない。
5-2	中米地域レベルの防災分野帰国研修員ネットワークの年次会合が開催される。	本邦研修「中米防災対策」の渡航前に実施される事前研修の機会に、毎年帰国研修員会合を開催している。
5-3	情報交換のための帰国研修員データベースが構築される。	各国JICA事務所で帰国研修員データベースは整備しているが、地域レベルのデータベースはまだ構築されていない。
5-4	コミュニティ防災に関する知識や教訓の交換・共有を目的とした中米地域防災会議（フィールド視察付）が、プロジェクト期間中に3回以上開催される。	2010年に第1回地域防災フォーラムが開催された。以降毎年1回（プロジェクト実施期間中計3回）開催される予定である。
5-5	コミュニティ防災の優良事例をまとめたパンフレットが作成され、プロジェクト対象コミュニティ及びその他のコミュニティで配布される。	この成果はプロジェクトの残り期間で達成される見込みである。
5-6	プロジェクトの成果を報告するための合同調整委員会が年1回開催される。	JCC会議は毎年開催されている。

5-7	プロジェクトの経験を対象各国間で交換する活動が年1回以上開催される。	JCC 会議が対象国間の経験交換の機会を提供している。この他に、DIG や早期警戒システムに関する技術 W/S や地域防災フォーラムも経験交換の機会となっている。
5-8	CEPREDENAC にプロジェクトの情報を伝達、報告、移転する体制が存在する。	CEPREDENAC は加盟国の防災担当機関の長が集まる理事会会合を定期的に開催しており、プロジェクトに関する情報はその場で逐次報告・伝達されている。CEPREDENAC はメンバー機関に連絡担当を置いており、プロジェクト実施に関するやり取りや調整を可能にしている。

### 3-5 プロジェクト目標の達成見込み

#### 【プロジェクト目標】

対象コミュニティ及び対象自治体の防災能力が向上するとともに、各国防災関連機関、及び CEPREDENAC 調整事務局のコミュニティ防災を推進する能力が強化される。

プロジェクト目標の達成度は中間点としては中程度であり、今後の活動により協力期間内の目標達成が見込める。市レベル及びコミュニティレベルにおけるプロジェクト目標の達成度は比較的高いが、国レベル及び中米地域レベルの達成度は高いとは言えない。従って、CEPREDENAC 調整事務局、及び各国の国家防災機関の更なるコミュニティ防災推進能力の開発が求められる。

指標No.	指標	達成状況
1	対象コミュニティの自然災害に対する脆弱性の減少（目標値：全対象コミュニティのうち、80%のコミュニティが、別紙1の評価シートの項目の6ポイント以上を達成）	中間レビュー時点で目標の6ポイント*を達成しているのは、調査対象48コミュニティのうち19コミュニティ（40%）である。しかしながら、32コミュニティ（67%）が5ポイント以上を達成していることから、プロジェクト実施期間中に目標値である80%に到達することは可能であると考えられる。
2	対象自治体の災害管理能力の向上（目標値：全対象自治体のうち、80%の自治体が、別紙2の評価シートの項目の6ポイント以上を達成）	中間レビュー時点で調査対象18市のうち15市（83%）が6ポイント以上を達成している。従って達成見込みは高いと考えられる。
3	各国防災関連機関及び CEPREDENAC 調整事務局のコミュニティ防災に関する意識・知識の向上（目標値：別紙3の評価シートの項目の4ポイント以上を達成）	対象国防災機関と CEPREDENAC 調整事務局のうち、CONRED のみが4ポイントに達している他、3つの機関が3ポイント以上となっている。

\*プロジェクト目標達成度はPDMの別紙1～3「評価シート」の達成項目数によって測ることとなっているが、「達成=1」または「未達成=0」の二者択一で評価するのではなく、本調査に先立って実施した事前データ収集調査では、完全には達成していないものの取り組み途中であるような状況も評価に考慮するため、0ポイント（未取り組み）、0.25ポイント、0.5ポイント、0.75ポイント、1ポイント（達成）の5段階に分けて評価した。上の表中、達成状況の「ポイント」としているのはそれらの合計値である。

### 3-6 上位目標の達成見込み

#### 【上位目標】

コミュニティ防災にかかる情報、経験、手法等が、中米域内の異なる地域間で共有され、活用される

プロジェクトで導入した手法・技術等は、既に波及効果を現しつつあり、上位目標の達成が期待できる。今後更にプロジェクトで得られた経験・知識を体系化し地域内で共有することが求められる。

指標No.	指標	達成状況
1	中米域内のコミュニティ及び自治体における、本プロジェクトの成果を活用した防災への取り組み事例	<p>プロジェクトで開発した手法・技術が、プロジェクト対象の市やコミュニティ以外の地域で活用されている事例が確認されている。具体的には以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パナマ:カピラ郡のプロジェクト対象外の3つのコミュニティで、プロジェクトで紹介された早期警戒用の簡易雨量計を自発的に導入し使用している。</li> <li>・ エルサルバドル:2009年11月のハリケーン Ida の被害後、プロジェクト対象外の市からプロジェクトに関する情報照会や協力要請を受けるようになった。</li> <li>・ ニカラグア:レオン市では、過去に他ドナーの支援でコミュニティに配布された無線機がメンテナンス不足で使われなくなっていたが、プロジェクトへの参加を通じてレオン市がコミュニティとの連絡の重要性を認識し、全ての無線機を修理し使用できるよう予算を付けた。</li> </ul>

### 3-7 効果発現を促進・阻害した要因

#### (1) 促進要因

##### 1) 課題別研修「中米防災対策」コース

「中米防災対策」コースの帰国研修員による効果発現への貢献は顕著である。2000年度にフェーズⅠの研修コースを開始して以来、10回のコースに132人にのぼる中米の防災関係者が参加しており、中米のどの国においても防災機関の中核には帰国研修員がいると言っても過言ではない。中米地域では政権交代等に伴う行政官の交替が頻繁に起こるといった問題があるが、交代したプロジェクト担当者がやはり帰国研修員であったという例もある。帰国研修員は、日本の防災のしくみや、コミュニティが自ら防災に取り組むことの重要性を良く理解していることから、本プロジェクトの推進と効果発現の大きな原動力となっている。特に、市レベルにおける帰国研修員の活躍は目覚ましく、今回の調査で面談したカーニャス市（コスタリカ）、サン・ペドロ・マサワット市（エルサルバドル）、レオン市（ニカラグア）の防災担当者は、いずれも研修の成果を活かした活動を展開している。

##### 2) 青年海外協力隊員（JOCV）との連携

本プロジェクトと連携することを当初から想定して派遣された青年海外協力隊員（職種は村落開発普及員）は、現在、エルサルバドルで3名、コスタリカで2名活動している。それぞれ

市に配属されてコミュニティ防災活動を推進しており、プロジェクト対象となっているコミュニティに限らず担当地域内の様々なコミュニティや学校を巡回して指導している。またプロジェクト専門家が現地で指導する際には現地での活動支援を行っている。本レビュー調査では3名の隊員と直接面談したが、いずれも日本の顔として活躍している。彼らがコミュニティの信頼を得ていることで、コミュニティ住民がプロジェクト活動に参加するモチベーションを高め、プロジェクトの活動を円滑に進めることに貢献していることに加え、プロジェクトの対象となっていないコミュニティへの成果普及の面でも貢献している。

### 3) カウンターパート研修

対象各国防災機関の長官、局長クラスの幹部を招いた C/P 研修にはコスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ及び CEPREDENAC の長官または局長が参加した。長期専門家からの聴き取りによると、カウンターパート機関の幹部が本邦での研修に参加したことにより、日本人専門家による指導の背景にあるものや、コミュニティ防災の重要性に対する理解が進み、各機関の本プロジェクトへの取り組み姿勢が明らかに変わったという。特にトップダウン型の行政機構を持つ中米諸国においては、組織の幹部がプロジェクトに十分な理解を持つということは効果発現の大きな促進要因となる。

## (2) 阻害要因

### 1) 頻繁な人事異動

中米地域の特性として、国、自治体のいずれにおいても政権交代があると行政官の大幅な人事異動が発生し、かつ業務の引継ぎが十分に行われない点が問題である。これまでの協力期間中にも、各国で中央や地方の政権交代により、プロジェクト関係者の異動が何度もあった。

### 2) 関係者・関係機関の多さ

6つの国家防災機関、CEPREDENAC 調整事務局、防災関連の研究機関、日本人専門家、現地コーディネーター、JICA 本部及び6カ国の JICA 事務所、25の対象市、49の対象コミュニティ、本邦研修「中米防災対策」と第三国研修「市民安全と防災」に関わる機関など、本プロジェクトには極めて多くの機関や個人が関係しているが、これらのプロジェクト関係者・関係機関の間で十分に情報を共有し、プロジェクト全体の活動モニタリングを行い、会議・セミナー等の活動の調整を行うことは、極めて困難なことである。



## 第4章 評価5項目によるレビュー結果

### 4-1 妥当性

以下の観点から、本プロジェクトの妥当性は高い。

中米地域は自然災害に対して脆弱であり、プロジェクト開始から中間レビューまでの3年弱に限ってみても、エルサルバドルにおけるハリケーン Ida に伴う水害及び土砂災害、グアテマラにおける地滑り、コスタリカやホンジュラスにおける地震など、多くの自然災害に見舞われている。中米地域、国、市及びコミュニティの各レベルにおけるプロジェクト関係者は、このような高い災害脆弱性を認識しており、防災及びプロジェクトの活動に対して強い関心を持っている。従って、本プロジェクトは受益者のニーズに合致している。

また、プロジェクトは、中米地域及び対象各国の防災政策及び計画とも一致している。中米防災10年計画（PRRD 2006-2015）において、「地方の防災能力の向上」は戦略的枠組みの5つのコンポーネントのひとつとして位置づけられている。更に、CEPREDENAC において現在承認へ向けた最終段階に入っている中米統合防災政策（PCGIR）においても、防災に対して中米地域全体として取り組む手段として、地方における減災及び災害対応能力を向上することの必要性を明記している。各国の国レベルの防災政策・計画は、PRRD や PCGIR を踏まえて策定されているため、本プロジェクトが推進しようとしているコミュニティレベルの災害対応力強化は、中米地域及び各国の防災政策・計画と合致していると言える。

### 4-2 有効性

現時点でプロジェクトの有効性を十分に評価することは困難であるが、プロジェクトの有効性が十分に高いとは言い難い。プロジェクト目標の指標3の達成度に見られるように、地域・国レベルの機関のコミュニティ防災推進能力の開発が十分なレベルに達していないことが、主な原因である。しかしながら、中米地域内各国間のコミュニティ防災に関する情報・経験の普及・共有体制が今後さらに強化されれば、プロジェクト目標の達成度が向上し、それに応じて有効性が高まることが期待できる。

プロジェクトサイトの数が多く、広い地域に分散していることが、限られたプロジェクト資源（予算・人員・時間）の分散につながり、プロジェクト目標の達成を妨げ、有効性の発揮を妨げている恐れがある。従ってプロジェクトの残りの協力期間では、活動の実施対象とする自治体、コミュニティを明確に特定するとともに、プロジェクト活動の適切な運営管理が可能な数に留めるべきである。

### 4-3 効率性

プロジェクトの効率性は概ね高いと言える。

成果の達成度は概ね高く、部分的に達成が遅れている成果指標はあるものの、残りのプロジェクト期間の活動により達成可能と考えられる。

本プロジェクトと同様の効果を得るために、6カ国それぞれで6件のプロジェクトを実施したとすれば、本プロジェクトよりもはるかに大きな投入が必要となるはずであり、その点を考慮すると本プロジェクトのコスト効率性は高いと考えられる。今後プロジェクトの中で得られた技術、知識、経験等を各国間で共有する仕組みを強化すれば、効率性はより高まるであろう。また、課題別研修や、第

三国研修、JOCV との連携は、それぞれの事業を単体で実施することで得られる効果以上の付加価値を生み出している。ただし、広域協力及び他事業との連携によって得られる効率性の向上と引き換えに、本プロジェクトの関係者・関係機関の数は通常の二国間協力プロジェクトと比較して極めて多く、これら関係者・関係機関との調整・情報共有に大きな労力とコストを費やしていることから、効率性のマイナス要因として作用する恐れがあることを認識する必要がある。その影響を緩和するためには、関係者・関係機関間の調整のための効率的なコミュニケーションの仕組みの構築に取り組む必要がある。

#### 4-4 インパクト

中間レビュー調査時点でインパクトを測ることは困難であるが、プロジェクトが上位目標の達成に寄与しつつある兆候が既に見られ始めており、インパクトを生み出しつつあると考えられる。その具体的な事例は、「3-6 上位目標の達成見込み」で言及したとおりである。

さらに、CEPREDENAC と緊密に協力し、中米地域の広域プロジェクトとして実施しているということにより、プロジェクトの成果が中米地域の防災政策・計画に反映される可能性を高めており、それと同時に中米地域の防災政策・計画に沿って策定される各国の防災政策・計画にも影響を与える可能性を高めている。

また、古タイヤ堤防の試験施工を実施したコスタリカのホテル地区では、建設作業を通じてコミュニティの連帯感・結束が強まったことが現地での聞き取り調査で分かったが、同様の効果は他のプロジェクト対象コミュニティでも程度の差はあるもの見られており、このようなコミュニティの連帯感・結束の強化は、災害対応能力の強化のみならず、様々な側面におけるコミュニティの発展・改善に幅広く寄与するものであり、プロジェクトのプラスの影響ととらえることができる。

#### 4-5 自立発展性

自立発展性を確保できる見通しは概ね高いが、プロジェクトの残り期間の取り組みに依るところが大きい。

政策面での自立発展性は、PRRD に「地方の防災能力の向上」が謳われていることや、さらに地方における減災及び災害対応能力の向上を打ち出した PCGIR が正式承認されることによって、維持されることが期待される。

本プロジェクトでは、コミュニティや自治体レベルにおける防災活動で活用してもらうために、コストと技術水準の両方の観点における適性技術を開発し、普及することを目指していることから、技術面における自立発展性に大きな問題は無いと考えられる。

組織面及び財政面での自立発展性が、プロジェクト全体の自立発展性を左右する鍵となる。各国の国家防災機関は、概して人員・財政の面で他の省庁に比べ小規模で、地方からの防災体制強化への支援要望に独力で継続的に応えていくことは難しい。また、数年おきに必ず起こる政権交替とそれに伴う大幅な人員の交替も、持続性の確保を難しくしている。この問題に対処するためのひとつの方策は、関係する省庁や政府機関、学校、大学、メディア、NGO といった様々な組織と連携し、これら組織の事業の中にプロジェクトを通じて得られた技術、経験、知識などをインプットすることで、普及を図るという方法が考えられる。また、地方部における自立発展性の確保という点では、プロジェクト

の残り期間において、コミュニティと直接向き合う自治体（市）の能力開発に注力することも重要となる。

プロジェクトでは、これまで日本側がプロジェクト活動に必要な費用の多くを負担してきたが、自立発展性の観点からは、プロジェクトの残り期間で中米側のインプットを増やしていくことが望ましい。

#### 4-6 結論

プロジェクトは、マスタープラン及び各国の年間活動計画（APO）に基づいて実施されてきており、様々なプラスの効果を現し始めている。各成果の達成度は概ね高いと言える。現時点でプロジェクト目標の達成度は中程度であるが、残りの協力期間で達成度が高まっていくことが期待される。

プロジェクトの妥当性は高く、効率性と自立発展性は概ね高い。有効性とインパクトについて現時点で高いと判断することは困難であるが、残りの協力期間で大きく改善する見込みはある。本プロジェクトが広域協力であることによる付加価値が、妥当性、効率性、インパクトの観点において見られた。

以上の分析から、プロジェクトは、基本計画と実施体制に大幅な変更を加える必要はないと判断される。



## 第5章 提言・教訓

### 5-1 提言

#### (1) プロジェクトの持続可能性を高めるための方策

協力期間後もプロジェクトの自立発展性を確保するために、協力期間中に以下の措置を取ることを提言する。

- 1) CEPREDENAC 調整事務局は、防災を推進するための手法、ツール、技術等を管理する新しいデータベースを構築中であり、そのデータベースには本プロジェクトで開発された手法、ツール、技術も含まれることになる。構築されるデータベースは、SINAPROC や「ラテンアメリカ・カリブ地域災害情報センター (CRID)」が持つ既存のデータベースとネットワーク化されるべきである。それにより、中米諸国は必要な時にいつでもデータベースの情報にアクセスできるようになる。データベースのみならず、CEPREDENAC 調整事務局は、電子化されていない資料や教材などに来訪者が直接触れて使ってみることができる閲覧・保管用の場所を確保すべきである。
- 2) 各国の国家防災機関は、プロジェクトの終了時を見据え、本プロジェクトの枠組みの中で実施される様々な防災活動への投入予算を増やすべく、努力すべきである。そうすることによって、プロジェクト終了時に日本側の投入が急に無くなることによって生じる負の影響を緩和することができる。同様に、現在、日本人専門家が担っている、地方自治体やコミュニティに対して助言・指導を与える役割をプロジェクト終了後に引き継げるよう、国家防災機関でコミュニティ防災の推進に携わるスタッフ数を増員すべきである。
- 3) コミュニティ防災の推進活動は、学校教育、土地利用・都市開発計画、保健・衛生普及事業、マスメディアの報道や大学の研究等、防災以外の他セクターの活動や事業の中に組み込んでいくべきである。そのために、各国の国家防災機関は、これらの活動や事業を実施する様々な機関が、プロジェクト活動に参画するよう働きかけていくべきである。

#### (2) 各国の国家防災機関におけるプロジェクトへの組織的な取組みの強化

各国の防災機関は、本プロジェクトへのオーナーシップを一層高め、本プロジェクトの理念や精神をそれぞれの組織文化に取り込んでいくよう努めるべきである。本プロジェクトの活動を、それぞれの機関の通常業務の中に組み込み、組織内の様々な部署が共同しながら組織として一体的に取り組む体制を取るべきである。

#### (3) 対象コミュニティへの継続的な支援のための自治体の能力強化

コミュニティの能力開発には、しばしば長い期間を要する。コミュニティが独力で防災活動を継続できるようになるまでは、コミュニティへの十分なフォローアップの支援が不可欠である。従って、各国の国家防災機関は、これらのコミュニティを管轄する自治体の能力強化に努め、自治体がコミュニティに継続的な支援を提供できるようにしなくてはならない。このような観点から、能力強化の対象を明確化するために、プロジェクトの残りの期間においては、プロジェクトの支援対象とする自治体とコミュニティを明確に特定することが望ましい。

#### (4) プロジェクトの成果・効果の広報・普及の強化

プロジェクトは、目に見える成果や効果を生み出し始めていることから、プロジェクトの成果・効果を広報し普及する努力を強化すべき時期に入りつつある。そのために、プロジェクトの進捗や成果を適切に記録・報告する体制を整えることが不可欠である。各国の国家防災機関は、年間活動計画（APO）と PDM の活動及びモニタリング指標に対応した半年毎の進捗報告書を作成し、CEPREDENAC 調整事務局に提出して、日本側と共有すべきである。また、プロジェクトを通じて得られた知識、経験、成果を普及するため、プロジェクトのウェブサイトにより有効に活用すべきである。広報・普及の面でのもうひとつの提言は、帰国研修員のネットワークを有効活用することである。帰国研修員は、防災の理念を良く理解しており、かつ様々な地域、分野、セクター（公共、民間）、レベル（中米地域レベル、中央レベル、地方レベル）に分散して活動していることから、プロジェクトの成果を幅広い地域、社会グループで普及・浸透させていくための理想的なエージェントとなり得るためである。

#### (5) 運営管理の効率化

プロジェクト活動の実施を加速し、プロジェクトの効果を高めるため、すべてのプロジェクト関係者は、連携・調整や資金管理を含む運営管理体制の効率化に努めるべきである。

### 5-2 教訓

広域プロジェクトを計画する際には、その利点と困難な点に留意する必要がある。広域協力には参加各国の様々な関係機関間の調整と情報共有に多大な努力を必要とする。加えて、ひとつのプロジェクトの予算を異なる国で執行することになり、予算管理も複雑となる。従って、通常の二国間協力と比較して、広域協力においては、プロジェクトチームの運営管理部門により多くのリソースを配分する必要がある。他方で、本プロジェクトにおける CEPREDENAC のような関連する分野の地域国際機関と協力してプロジェクトを実施することにより、地域国際機関が持っている域内各国間の調整・情報共有の機能、ネットワーク、ノウハウを活用することができ、関係機関間の調整・情報共有に係るプロジェクトの負担を軽減することができる。

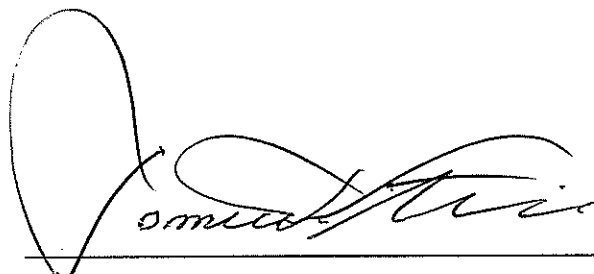
AMENDMENTS TO THE RECORD OF DISCUSSIONS  
BETWEEN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF COSTA RICA  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE PROJECT ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR DISASTER RISK  
MANAGEMENT IN CENTRAL AMERICA "BOSAI"

The Resident Representative of the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in Costa Rica had a series of discussions with Costa Rica's authorities concerned with respect to the contents of the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D"), signed on May 27, 2007, for the Project on Capacity Development for Disaster Risk Management in Central America "BOSAI" (hereinafter referred to as "the Project").

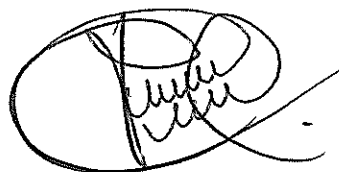
As a result of the discussions, both sides agreed to amend the articles and annexes of the R/D as per provided in the attached document herewith for successful implementation of the Project.

Done in duplicate in the English and Spanish languages, each text shall be equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

San José, Costa Rica, February 26, 2008



Tomio Takahashi  
Resident Representative,  
Japan International Cooperation Agency  
Costa Rica Office



Daniel Gallardo  
Presidente, CNE  
Costa Rica

## THE ATTACHED DOCUMENT

## IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The President of National Commission of Emergency, as the Project Director in Costa Rica, will bear the overall responsibility for the administration and implementation of the Project within Costa Rica.
2. The Chief of the emergency information system of the National Commission of Emergency, as the Project Manager in Costa Rica, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project within Costa Rica.
3. The Executive Secretary of SE-CEPREDENAC, as the Regional Coordinator, will be responsible for the coordination and knowledge/information sharing among CEPREDENAC member counties, as well as the implementation of regional level activities of the Project.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager and the Regional Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the counterpart personnel of the Project on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established whose functions and composition are described in Annex VI [Annex VII in the case of Honduras]. JCC meetings will be held in one of the CEPREDENAC member countries, and the host country will be determined for each meeting.



ANNEX I MASTER PLAN

5. Activities

- (4)-2 Staff of CEPREDENAC members countries and Executive Secretariat of the CEPREDENAC, participates in the third-country training programs in Mexico and other countries.

ANNEX IV (ANNEX V in the case of Honduras) LIST OF COUNTERPART AND  
ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Administrative Personnel

(1) Project Director in Costa Rica

Daniel Gallardo, President of CNE

(2) Project Manager in Costa Rica

Douglas Salgado, the Chief of the emergency information system of the National  
Commission of Emergency

ANNEX VI (ANNEX VII in the case of Honduras) JOINT COORDINATING COMMITTEE

2. Composition

(1) Chairperson:

- Project Director of the host country of the JCC meeting

(2) Members:

a. Central American side:

- Project Directors of the CEPREDENAC member countries
- Project Managers of the CEPREDENAC member countries
- Regional Coordinator

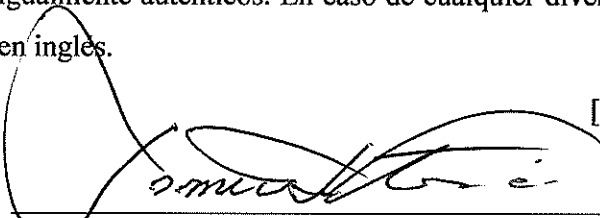
**ENMIENDAS DEL REGISTRO DE LAS DISCUSIONES  
ENTRE AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON Y LAS  
AUTORIDADES PERTINENTES DEL GOBIERNO DE COSTA RICA EN TORNO A LA  
COOPERACIÓN TÉCNICA DEL JAPÓN PARA EL PROYECTO DE DESARROLLO DE  
CAPACIDADES PARA LA GESTIÓN DE RIESGOS DE DESASTRES EN AMÉRICA  
CENTRAL “BOSAI”**

El Representante Residente de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante “JICA”) en Costa Rica, sostuvo una serie de discusiones con las autoridades pertinentes de Costa Rica, con respecto a los contenidos del Registro de Discusiones (en adelante “R/D”), firmado el 25 de mayo de 2007, del Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión de Desastres en América Central “BOSAI”.

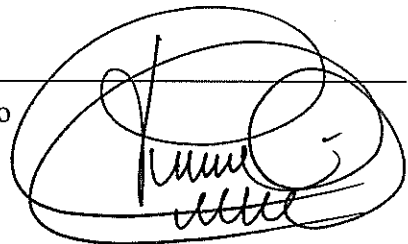
Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron enmendar los artículos y anexos de R/D como queda estipulado en el documento adjunto a la presente.

Elaborados por duplicado tanto en idioma español como en inglés, ambos textos son igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia de interpretación, debe prevalecer el texto en inglés.

[San Jose, Costa Rica, 26 de Febrero de 2008]



\_\_\_\_\_  
Tomo Takahashi  
Representante Residente  
Agencia de Cooperación Internacional del Japón  
Oficina en Costa Rica



\_\_\_\_\_  
Daniel Gallardo  
Presidente  
CNE  
Costa Rica

**DOCUMENTO ADJUNTO****IV. ADMINISTRACIÓN DEL PROYECTO**

1. El Presidente de la Comisión Nacional de Emergencia, -CNE-, como Director del Proyecto en Costa Rica, asumirá la responsabilidad general de la administración y ejecución del Proyecto en Costa Rica.
2. Douglas Salgado, Jefe del Sistema de Información para Emergencias de la Comisión Nacional de Emergencias, -CNE- como Gerente del Proyecto en Costa Rica, será responsable de los aspectos gerenciales y técnicos de la ejecución del Proyecto en Costa Rica.
3. El Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC, en calidad de Coordinador regional, será responsable de la coordinación y intercambio de conocimientos/informaciones entre los países miembros de CEPREDENAC, así como la implementación de las actividades regionales del Proyecto.
4. El Asesor Principal japonés hará las recomendaciones necesarias y asesorará a los Directores y Gerentes del Proyecto, y Coordinador Regional en los aspectos relativos a la ejecución del Proyecto.
5. Los expertos japoneses proporcionarán la orientación técnica y asesoría necesarias al personal de contraparte del Proyecto en los aspectos técnicos vinculados con la ejecución del Proyecto.
6. Para la ejecución efectiva y exitosa de la cooperación técnica para el Proyecto, se establecerá un Comité de Coordinación Conjunta (en adelante "JCC"), cuya composición y funciones están descritas en el Anexo VI [Anexo VII en el caso de Honduras]. Las reuniones del JCC se llevarán a cabo en uno de los países Miembros del CEPREDENAC y el país huésped será determinado en cada reunión.

## **ANEXO I      PLAN MAESTRO**

### **5. Actividades del Proyecto**

- (4)-2 Participación de los funcionarios de los países Miembros del CEPREDENAC y la Secretaría Ejecutiva del CEPREDENAC en los programas de capacitación en México y otros terceros países.

**ANEXO IV [ANEXO V en el caso de Honduras] LISTA DE PERSONAL DE  
CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO**

**1. Personal Administrativo**

(1) Director del Proyecto en Costa Rica

Daniel Gallardo, Presidente –CNE-

(2) Gerente del Proyecto en Costa Rica

Douglas Salgado, Jefe del Sistema de Información de Emergencias de la CNE

**ANEXO VI [ANEXO VII en el caso de Honduras] COMITÉ DE COORDINACIÓN  
CONJUNTA**

**1. Composición:**

**(1) Presidente**

- Director del Proyecto del país organizador de la junta de JCC

**(2) Miembros:**

**a. Por parte de Centro América:**

- Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Coordinador Regional

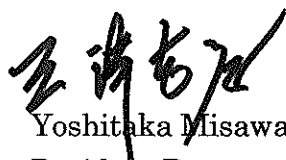


AMENDMENTS TO THE RECORD OF DISCUSSIONS  
 BETWEEN  
 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
 THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF EL SALVADOR  
 ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
 FOR THE PROJECT ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR DISASTER RISK  
 MANAGEMENT IN CENTRAL AMERICA "BOSAI"

The Resident Representative of the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in El Salvador had a series of discussions with Costa Rica's authorities concerned with respect to the contents of the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D"), signed on May 3, 2007, for the Project on Capacity Development for Disaster Risk Management in Central America "BOSAI" (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the discussions, both sides agreed to amend the articles and annexes of the R/D as per provided in the attached document herewith for successful implementation of the Project.

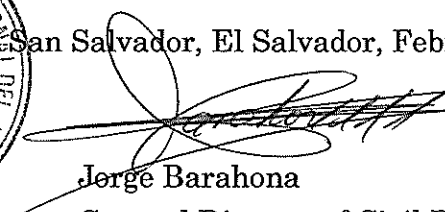
Done in duplicate in the English and Spanish languages, each text shall be equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.



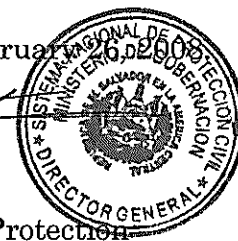
Yoshitaka Misawa  
 Resident Representative,  
 Japan International Cooperation Agency  
 El Salvador Office



San Salvador, El Salvador, February 26, 2008



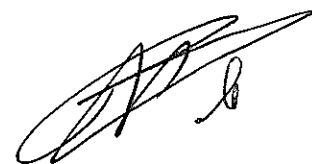
Jorge Barahona  
 General Director of Civil Protection  
 System  
 El Salvador



## THE ATTACHED DOCUMENT

## IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Director of Civil Protection, as the Project Director in El Salvador, will bear the overall responsibility for the administration and implementation of the Project within El Salvador.
2. The chief of the training department of Civil Protection, as the Project Manager in El Salvador, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project within El Salvador.
3. The Executive Secretary of SE-CEPREDENAC, as the Regional Coordinator, will be responsible for the coordination and knowledge/information sharing among CEPREDENAC member countries, as well as the implementation of regional level activities of the Project.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager and the Regional Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the counterpart personnel of the Project on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established whose functions and composition are described in Annex VI [Annex VII in the case of Honduras]. JCC meetings will be held in one of the CEPREDENAC member countries, and the host country will be determined for each meeting.



ANNEX I MASTER PLAN

5. Activities

- (4)-2 Staff of CEPREDENAC members countries and Executive Secretariat of the CEPREDENAC, participates in the third-country training programs in Mexico and other countries.

A handwritten signature in black ink, consisting of several overlapping loops and a final flourish on the right side.

ANNEX IV (ANNEX V in the case of Honduras) LIST OF COUNTERPART AND  
ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Administrative Personnel

(1) Project Director in El Salvador

Jorge Barahona, Director of Civil Protection System

(2) Project Manager in El Salvador

Fermin Pérez, Chief of the training Department of Civil Protection

A handwritten signature in black ink, consisting of several overlapping loops and a final flourish, located in the bottom right corner of the page.

ANNEX VI (ANNEX VII in the case of Honduras) JOINT COORDINATING COMMITTEE

2. Composition

(1) Chairperson:

- Project Director of the host country of the JCC meeting

(2) Members:

a. Central American side:

- Project Directors of the CEPREDENAC member countries
- Project Managers of the CEPREDENAC member countries
- Regional Coordinator

A handwritten signature in black ink, consisting of several overlapping, fluid strokes. The signature is located in the bottom right corner of the page.

**ENMIENDAS DEL REGISTRO DE LAS DISCUSIONES  
ENTRE AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON Y LAS  
AUTORIDADES PERTINENTES DEL GOBIERNO DE EL SALVADOR EN TORNO A LA  
COOPERACIÓN TÉCNICA DEL JAPÓN PARA EL PROYECTO DE DESARROLLO DE  
CAPACIDADES PARA LA GESTIÓN DE RIESGOS DE DESASTRES EN AMÉRICA  
CENTRAL “BOSAI”**

El Representante Residente de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante “JICA”) en El Salvador sostuvo una serie de discusiones con las autoridades pertinentes de El Salvador, con respecto a los contenidos del Registro de Discusiones (en adelante “R/D”), firmado el 3 de mayo de 2007, del Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión de Desastres en América Central “BOSAI”.

Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron enmendar los artículos y anexos de R/D como queda estipulado en el documento adjunto a la presente.

Elaborados por duplicado tanto en idioma español como en inglés, ambos textos son igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia de interpretación, debe prevalecer el texto en inglés.

San Salvador, El Salvador 26 de Febrero de 2008

  
 Yoshitaka Misawa

Representante Residente  
Agencia de Cooperación Internacional del Japón  
Oficina en El Salvador



  
 Jorge Alberto Barahona

Director General de  
Protección Civil, Prevención y Mitigación de  
Desastres de El Salvador



**DOCUMENTO ADJUNTO****IV. ADMINISTRACIÓN DEL PROYECTO**

1. El Director General de Protección Civil, Prevención y Mitigación de Desastres, como Director del Proyecto en El Salvador, asumirá la responsabilidad general de la administración y ejecución del Proyecto en El Salvador.
2. El Jefe de Departamento de Capacitación y Formación de la Dirección General de Protección Civil,- como Gerente del Proyecto en El Salvador, será responsable de los aspectos gerenciales y técnicos de la ejecución del Proyecto en El Salvador.
3. El Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC, en calidad de Coordinador regional, será responsable de la coordinación e intercambio de conocimientos/informaciones entre los países miembros de CEPREDENAC, así como la implementación de las actividades regionales del Proyecto.
4. El Asesor Principal japonés hará las recomendaciones necesarias y asesorará a los Directores y Gerentes del Proyecto, y Coordinador Regional en los aspectos relativos a la ejecución del Proyecto.
5. Los expertos japoneses proporcionarán la orientación técnica y asesoría necesarias al personal de contraparte del Proyecto en los aspectos técnicos vinculados con la ejecución del Proyecto.
6. Para la ejecución efectiva y exitosa de la cooperación técnica para el Proyecto, se establecerá un Comité de Coordinación Conjunta (en adelante "JCC"), cuya composición y funciones están descritas en el Anexo VI [Anexo VII en el caso de Honduras]. Las reuniones del JCC se llevarán a cabo en uno de los países Miembros del CEPREDENAC y el país huésped será determinado en cada reunión.



## ANEXO I PLAN MAESTRO

### 5. Actividades del Proyecto

- (4)-2 Participación de los funcionarios de los países Miembros del CEPREDENAC y la Secretaría Ejecutiva del CEPREDENAC en los programas de capacitación en México y otros terceros países.





**ANEXO IV [ANEXO V en el caso de Honduras] LISTA DE PERSONAL DE  
CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO**

1. Personal Administrativo

(1) Director del Proyecto en El Salvador

Jorge Barahona, Director General de Protección Civil

Ministerio de Gobernación

(2) Gerente del Proyecto en El Salvador

Fermin Pérez, Jefe de Departamento de Capacitación y Formación de la Dirección General de  
Protección Civil

Ministerio de Gobernación

A handwritten signature in black ink, consisting of several overlapping, fluid strokes, located in the bottom right corner of the page.

**ANEXO VI [ANEXO VII en el caso de Honduras] COMITÉ DE COORDINACIÓN CONJUNTA**

**1. Composición:**

**(1) Presidente**

- Director del Proyecto del país organizador de la junta de JCC

**(2) Miembros:**

**a. Por parte de Centro América:**

- Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Coordinador Regional



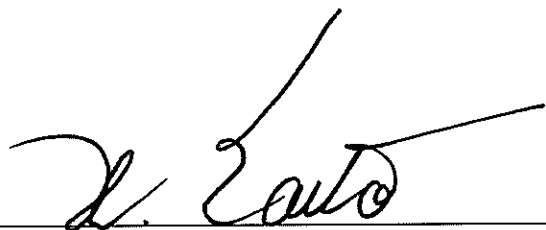
AMENDMENTS TO THE RECORD OF DISCUSSIONS  
 BETWEEN  
 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
 THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC  
 OF GUATEMALA ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
 FOR THE PROJECT ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR DISASTER RISK  
 MANAGEMENT IN CENTRAL AMERICA "BOSAI"

The Resident Representative of the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in Guatemala had a series of discussions with the Guatemalan authorities concerned with respect to the contents of the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D"), signed on April 30, 2007 for the Project on Capacity Development for Disaster Risk Management in Central America "BOSAI" (hereinafter referred to as "the Project").

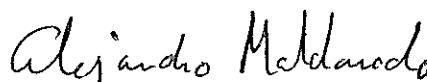
As a result of the discussions, both sides agreed to amend the articles and annexes of the R/D as per provided in the attached document herewith for successful implementation of the Project.

Done in duplicate in the English and Spanish languages, each text shall be equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

San Salvador, February 26<sup>th</sup>, 2008



Mr. Hiroshi Saito  
 Resident Representative,  
 Japan International Cooperation Agency  
 Guatemala's Office



Mr. Alejandro Maldonado Lutomirsky  
 Executive Secretary  
 National Coordinator for Disaster  
 Reduction (CONRED)  
 Guatemala

## THE ATTACHED DOCUMENT

## IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. Mr. Alejandro Maldonado Lutomirsky, Executive Secretary of National Coordinator for Disaster Reduction (CONRED) as the Project Director in Guatemala, will bear the overall responsibility for the administration and implementation of the Project within Guatemala.
2. Mr. Edgar Gomar, Delegate Region V CONRED, as the Project Manager in Guatemala, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project within Guatemala.
3. The Executive Secretary of SE-CEPREDENAC, as the Regional Coordinator, will be responsible for the coordination and knowledge/information sharing among CEPREDENAC member countries, as well as the implementation of regional level activities of the Project.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager and the Regional Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the counterpart personnel of the Project on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established whose functions and composition are described in Annex VI. JCC meetings will be held in one of the CEPREDENAC member countries, and the host country will be determined for each meeting.

ANNEX I MASTER PLAN

5. Activities

- (4)-2 Staff of CEPREDENAC members countries and Executive Secretariat of the CEPREDENAC, participates in the third-country training programs in Mexico and other countries.

## ANNEX IV LIST OF COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

### 1. Administrative Personnel

#### (1) Project Director in Guatemala

Mr. Alejandro Maldonado Lutomirsky

Executive Secretary of National Coordinator for Reduction Disaster (CONRED)

#### (2) Project Manager in Guatemala

Mr. Edgar Gomar, Delegate Region V CONRED

## ANNEX VI JOINT COORDINATING COMMITTEE

### 2. Composition

#### (1) Chairperson:

- Project Director of the host country of the JCC meeting

#### (2) Members:

##### a. Central American side:

- Project Directors of the CEPREDENAC member countries
- Project Managers of the CEPREDENAC member countries
- Regional Coordinator

**ENMIENDAS DEL REGISTRO DE LAS DISCUSIONES  
ENTRE AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON Y LAS  
AUTORIDADES PERTINENTES DEL GOBIERNO DE LA REPUBLICA DE  
GUATEMALA EN TORNO A LA COOPERACIÓN TÉCNICA DEL JAPÓN PARA EL  
PROYECTO DE DESARROLLO DE CAPACIDADES PARA LA GESTIÓN DE RIESGOS  
DE DESASTRES EN AMÉRICA CENTRAL “BOSAI”**

El Representante Residente de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante “JICA”) en Guatemala sostuvo una serie de discusiones con las autoridades pertinentes de con respecto a los contenidos del Registro de Discusiones (en adelante “R/D”), firmado el 30 de abril de 2007, del Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión de Desastres en América Central “BOSAI”.

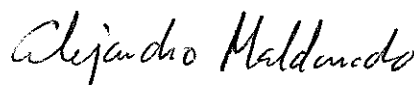
Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron enmedar los artículos y anexos de R/D como queda estipulado en el documento adjunto a la presente.

Elaborados por duplicado tanto en idioma español como en inglés, ambos textos son igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia de interpretación, debe prevalecer el texto en inglés.

San Salvador, 26 de febrero 2008



Hiroshi Saito  
Representante Residente  
Agencia de Cooperación Internacional del Japón  
Oficina en Guatemala



Alejandro Maldonado Lutomirsky  
Secretario Ejecutivo  
Coordinadora Nacional para la Reducción de  
Desastres (CONRED)  
República de Guatemala



**DOCUMENTO ADJUNTO****IV. ADMINISTRACIÓN DEL PROYECTO**

1. Ingeniero Alejandro Maldonado Lutomirsky, Secretario Ejecutivo de la Coordinadora Nacional para la Reducción de Desastres (CONRED), como Director del Proyecto en Guatemala, asumirá la responsabilidad general de la administración y ejecución del Proyecto en Guatemala.
2. Edgar Gomar, Delegado Región V, como Gerente del Proyecto en Guatemala, será responsable de los aspectos gerenciales y técnicos de la ejecución del Proyecto en Guatemala.
3. El Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC, en calidad de Coordinador Regional, será responsable de la coordinación y intercambio de conocimientos/informaciones entre los países miembros de CEPREDENAC, así como la implementación de las actividades regionales del Proyecto.
4. El Asesor Principal japonés hará las recomendaciones necesarias y asesorará a los Directores y Gerentes del Proyecto, y Coordinador Regional en los aspectos relativos a la ejecución del Proyecto.
5. Los expertos japoneses proporcionarán la orientación técnica y asesoría necesarias al personal de contraparte del Proyecto en los aspectos técnicos vinculados con la ejecución del Proyecto.
6. Para la ejecución efectiva y exitosa de la cooperación técnica para el Proyecto, se establecerá un Comité Mixto de Coordinación (en adelante "JCC"), cuya composición y funciones están descritas en el Anexo VI. Las reuniones del JCC se llevarán a cabo en uno de los países Miembros del CEPREDENAC y el país huésped será determinado en cada reunión.

## ANEXO I      PLAN MAESTRO

### 5. Actividades del Proyecto

- (4)-2 Participación de los funcionarios de los países Miembros del CEPREDENAC y la Secretaría Ejecutiva del CEPREDENAC en los programas de capacitación en México y otros terceros países.

## ANEXO IV LISTA DE PERSONAL DE CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO

### 1. Personal Administrativo

#### (1) Director del Proyecto en Guatemala

Ingeniero Alejandro Maldonado Lutomirsky

Secretario Ejecutivo de la Coordinadora Nacional para la Reducción de Desastres (CONRED)

#### (2) Gerente del Proyecto en Guatemala

Edgar Gomar

Delegado Región V, Secretaría Ejecutiva de la Coordinadora Nacional para la Reducción de Desastres (CONRED)

## **ANEXO VI COMITÉ MIXTO DE COORDINACIÓN**

### 1. Composición:

#### (1) Presidente

- Director del Proyecto del país organizador de la junta de JCC

#### (2) Miembros:

##### a. Por parte de Centro América:

- Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Coordinador Regional

BETWEEN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF HONDURAS  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE PROJECT ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR DISASTER RISK  
MANAGEMENT IN CENTRAL AMERICA "BOSAI"

The Resident Representative of the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in Honduras had a series of discussions with Honduras authorities concerned with respect to the contents of the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D"), signed on 30 de mayo de 2007, for the Project on Capacity Development for Disaster Risk Management in Central America "BOSAI" (hereinafter referred to as "the Project").

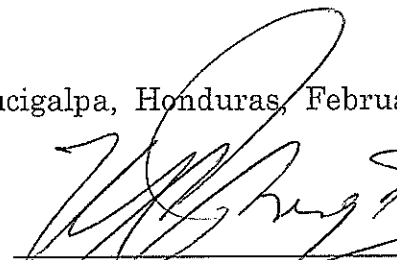
As a result of the discussions, both sides agreed to amend the articles and annexes of the R/D as per provided in the attached document herewith for successful implementation of the Project.

Done in duplicate in the English and Spanish languages, each text shall be equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Tegucigalpa, Honduras, February 26 of 2008



Tatsuo Suzuki  
Resident Representative,  
Japan International Cooperation Agency  
Honduras Office



Marco Burgos  
National Commissioned  
COPECO  
Honduras



## THE ATTACHED DOCUMENT

## IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. National Commissioned as the Project Director in Honduras, will bear the overall responsibility for the administration and implementation of the Project within Honduras.
2. Joselina Matamoros, Jeff of Organization strengthening in COPECO, as the Project Manager in Honduras, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project within Honduras.
3. The Executive Secretary of SE-CEPREDENAC, as the Regional Coordinator, will be responsible for the coordination and knowledge/information sharing among CEPREDENAC member counties, as well as the implementation of regional level activities of the Project.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager and the Regional Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the counterpart personnel of the Project on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established whose functions and composition are described in Annex VI [Annex VII in the case of Honduras]. JCC meetings will be held in one of the CEPREDENAC member countries, and the host country will be determined for each meeting.

## ANNEX I MASTER PLAN

### 5. Activities

- (4)-2 Staff of CEPREDENAC, members countries and Executive Secretariat of the CEPREDENAC, participates in the third-country training programs in Mexico and other countries.

**ANNEX IV (ANNEX V in the case of Honduras) LIST OF COUNTERPART AND  
ADMINISTRATIVE PERSONNEL**

1. Administrative Personnel

(1) Project Director in Honduras

Marco Burgos, National Commissioned, COPECO, Honduras

(2) Project Manager in Honduras

Joselina Matamoros, Chief of Organization strengthening



2. Composition

(1) Chairperson:

- Project Director of the host country of the JCC meeting

(2) Members:

a. Central American side:

- Project Directors of the CEPREDENAC member countries
- Project Managers of the CEPREDENAC member countries
- Regional Coordinator

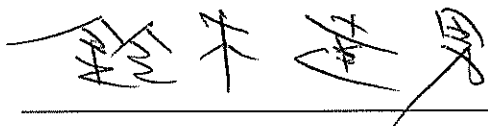
**ENMIENDAS DEL REGISTRO DE LAS DISCUSIONES  
ENTRE AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON Y LAS  
AUTORIDADES PERTINENTES DEL GOBIERNO DE HONDURAS EN TORNO A LA  
COOPERACIÓN TÉCNICA DEL JAPÓN PARA EL PROYECTO DE DESARROLLO DE  
CAPACIDADES PARA LA GESTIÓN DE RIESGOS DE DESASTRES EN AMÉRICA  
CENTRAL “BOSAI”**

El Representante Residente de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante “JICA”) en Honduras, sostuvo una serie de discusiones con las autoridades pertinentes de Honduras, con respecto a los contenidos del Registro de Discusiones (en adelante “R/D”), firmado el 30 de mayo de 2007, del Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión de Desastres en América Central “BOSAI”.

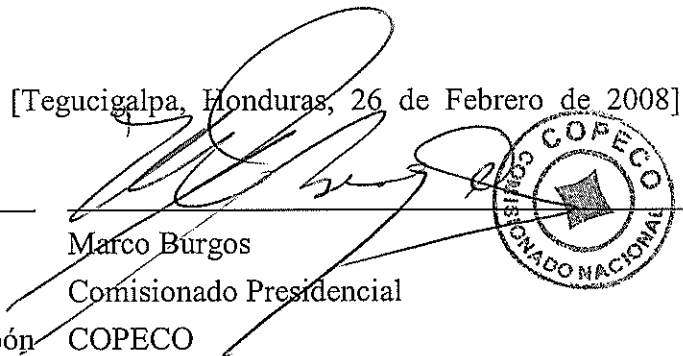
Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron enmendar los artículos y anexos de R/D como queda estipulado en el documento adjunto a la presente.

Elaborados por duplicado tanto en idioma español como en inglés, ambos textos son igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia de interpretación, debe prevalecer el texto en inglés.

[Tegucigalpa, Honduras, 26 de Febrero de 2008]



Tatsuo Suzuki  
Representante Residente  
Agencia de Cooperación Internacional del Japón  
Oficina en Honduras



Marco Burgos  
Comisionado Presidencial  
COPECO  
Honduras



**DOCUMENTO ADJUNTO****IV. ADMINISTRACIÓN DEL PROYECTO**

1. El Presidente de la Comisión Permanente de Contingencias, -COPECO-, como Director del Proyecto en Honduras, asumirá la responsabilidad general de la administración y ejecución del Proyecto en Honduras.
2. Joselina Matamoros, Jefe de Fortalecimiento Organizacional de la Comisión Permanente de Contingencias, -COPECO- como Gerente del Proyecto en Honduras, será responsable de los aspectos gerenciales y técnicos de la ejecución del Proyecto en Honduras.
3. El Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC, en calidad de Coordinador regional, será responsable de la coordinación y intercambio de conocimientos/informaciones entre los países miembros de CEPREDENAC, así como la implementación de las actividades regionales del Proyecto.
4. El Asesor Principal japonés hará las recomendaciones necesarias y asesorará a los Directores y Gerentes del Proyecto, y Coordinador Regional en los aspectos relativos a la ejecución del Proyecto.
5. Los expertos japoneses proporcionarán la orientación técnica y asesoría necesarias al personal de contraparte del Proyecto en los aspectos técnicos vinculados con la ejecución del Proyecto.
6. Para la ejecución efectiva y exitosa de la cooperación técnica para el Proyecto, se establecerá un Comité de Coordinación Conjunta (en adelante "JCC"), cuya composición y funciones están descritas en el Anexo VI [Anexo VII en el caso de Honduras]. Las reuniones del JCC se llevarán a cabo en uno de los países Miembros del CEPREDENAC y el país huésped será determinado en cada reunión.

## **ANEXO I      PLAN MAESTRO**

### **5. Actividades del Proyecto**

- (4)-2 Participación de los funcionarios de los países Miembros del CEPREDENAC y la Secretaría Ejecutiva del CEPREDENAC en los programas de capacitación en México y otros terceros países.

**ANEXO IV [ANEXO V en el caso de Honduras] LISTA DE PERSONAL DE  
CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO**

1. Personal Administrativo

(1) Director del Proyecto en Honduras

Marco Burgos, Comisionado Presidencial –COPECO-

(2) Gerente del Proyecto en Honduras

Joselina Matamoros, Jefe de Fortalecimiento Organizacional de la Comisión Permanente de Contingencias, COPECO.

## **ANEXO VI [ANEXO VII en el caso de Honduras] COMITÉ MIXTO DE COORDINACIÓN**

### 1. Composición:

#### (1) Presidente

- Director del Proyecto del país organizador de la junta de JCC

#### (2) Miembros:

##### a. Por parte de Centro América:

- Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Coordinador Regional

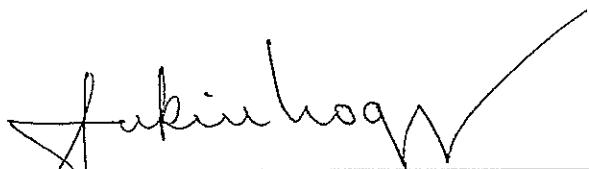
AMENDMENTS TO THE RECORD OF DISCUSSIONS  
BETWEEN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF PANAMA  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE PROJECT ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR DISASTER RISK  
MANAGEMENT IN CENTRAL AMERICA "BOSAI"

The Resident Representative of the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in Panama had a series of discussions with Panamanian authorities concerned with respect to the contents of the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D"), signed on May 7, 2007, for the Project on Capacity Development for Disaster Risk Management in Central America "BOSAI" (hereinafter referred to as "the Project").

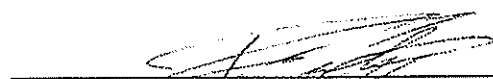
As a result of the discussions, both sides agreed to amend the articles and annexes of the R/D as per provided in the attached document herewith for successful implementation of the Project.

Done in duplicate in the English and Spanish languages, each text shall be equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Panama City, March 28, 2008

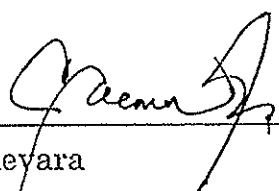


Yukio Noguchi  
Resident Representative,  
Japan International Cooperation Agency  
Panama Office



Roberto Velasquez Abood  
General Director  
National System of Civil Protection  
The Republic of Panama

Witness

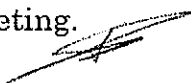


Carmen Guevara  
Director of International Technical Cooperation  
Ministry of Economy and Finance  
The Republic of Panama

## THE ATTACHED DOCUMENT

## IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. General Director of the National System of Civil Protection (SINAPROC) of Panama, as the Project Director in Panama, will bear the overall responsibility for the administration and implementation of the Project within Panama.
2. Director of Community Organization and Volunteers of the National System of Civil Protection (SINAPROC) of Panama, as the Project Manager in Panama, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project within the Republic of Panama
3. The Executive Secretary of SE-CEPREDENAC, as the Regional Coordinator, will be responsible for the coordination and knowledge/information sharing among CEPREDENAC member countries, as well as the implementation of regional level activities of the Project.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager and the Regional Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the counterpart personnel of the Project on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established whose functions and composition are described in Annex VI. JCC meetings will be held in one of the CEPREDENAC member countries, and the host country will be determined for each meeting.

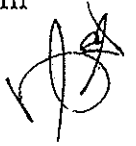
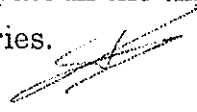




ANNEX I MASTER PLAN

5. Activities

- (4)-2 Staff of CEPREDENAC member countries and Executive Secretariat of the CEPREDENAC, participate in the third-country training programs in Mexico and other countries.



ANNEX IV LIST OF COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Administrative Personnel

(1) Project Director in the Republic of Panama

Director General of the National System of Civil Protection (SINAPROC) of Panama

(2) Project Manager in the Republic of Panama

Director of Community Organization and Volunteers of the National System of Civil Protection (SINAPROC) of Panama



## ANNEX VI JOINT COORDINATING COMMITTEE

### 2. Composition

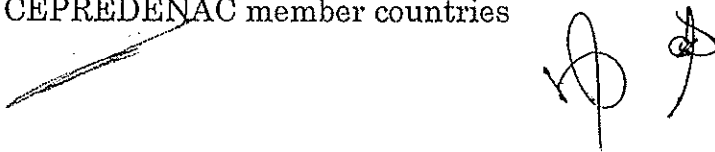
#### (1) Chairperson:

- Project Director of the host country of the JCC meeting

#### (2) Members:

##### a. Central American side:

- Project Directors of the CEPREDENAC member countries
- Project Managers of the CEPREDENAC member countries
- Regional Coordinator

A handwritten signature, possibly 'R. P.', is written in black ink. To its right is a smaller, more decorative scribble or flourish.

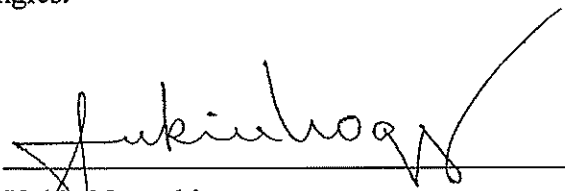
**ENMIENDAS DEL REGISTRO DE LAS DISCUSIONES  
ENTRE AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON Y LAS  
AUTORIDADES PERTINENTES DEL GOBIERNO DE PANAMÁ EN TORNO A LA  
COOPERACIÓN TÉCNICA DEL JAPÓN PARA EL PROYECTO DE DESARROLLO DE  
CAPACIDADES PARA LA GESTIÓN DE RIESGOS DE DESASTRES EN AMÉRICA  
CENTRAL “BOSAI”**

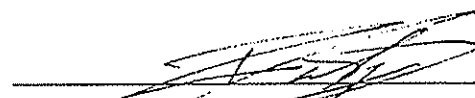
El Representante Residente de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante “JICA”) en Panamá sostuvo una serie de discusiones con las autoridades pertinentes de Panamá con respecto a los contenidos del Registro de Discusiones (en adelante “R/D”), firmado en 7 de mayo de 2007, del Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión de Desastres en América Central “BOSAI”.

Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron enmedar los artículos y anexos de R/D como queda estipulado en el documento adjunto a la presente para una exitosa ejecución del Proyecto.

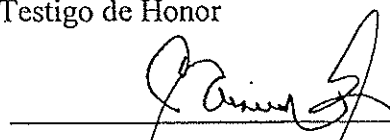
Elaborados por duplicado tanto en idioma español como en inglés, ambos textos son igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

Ciudad de Panamá, 28 de marzo de 2008

  
\_\_\_\_\_  
Yukio Noguchi  
Representante Residente  
Agencia de Cooperación Internacional del Japón  
Oficina en Panamá

  
\_\_\_\_\_  
Roberto Velásquez Abood  
Director General  
Sistema Nacional de Protección Civil  
República de Panamá

Testigo de Honor

  
\_\_\_\_\_  
Carmen Guevara  
Directora de Cooperación Técnica Internacional  
Ministerio de Economía y Finanzas  
República de Panamá

## DOCUMENTO ADJUNTO

## IV. ADMINISTRACIÓN DEL PROYECTO

1. Director General del Sistema Nacional de Protección Civil (SINAPROC) de Panamá, como Director del Proyecto en Panamá, asumirá la responsabilidad general de la administración y ejecución del Proyecto en la República de Panamá.
2. Director de Organización Comunitaria y Voluntarios del Sistema Nacional de Protección Civil (SINAPROC) de Panamá, como Gerente del Proyecto en Panamá, será responsable de los aspectos gerenciales y técnicos de la ejecución del Proyecto en la República de Panamá.
3. El Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC, en calidad de Coordinador regional, será responsable de la coordinación y el intercambio de conocimientos/informaciones entre los países miembros de CEPREDENAC, así como la implementación de las actividades regionales del Proyecto.
4. El Asesor Principal japonés hará las recomendaciones necesarias y asesorará al Director y Gerente del Proyecto, y al Coordinador Regional en los aspectos relativos a la ejecución del Proyecto.
5. Los expertos japoneses proporcionarán la orientación técnica y asesoría necesarias al personal de contraparte del Proyecto en los aspectos técnicos vinculados con la ejecución del Proyecto.
6. Para la ejecución efectiva y exitosa de la cooperación técnica para el Proyecto, se establecerá un Comité Mixto de Coordinación (en adelante "JCC"), cuya composición y funciones están descritas en el Anexo VI. Las reuniones del JCC se llevarán a cabo en uno de los países miembros del CEPREDENAC y el país organizador será determinado para cada reunión



ANEXO I PLAN MAESTRO

**5. Actividades del Proyecto**

(4)-2 Participación de los funcionarios de los países Miembros del CEPREDENAC y la Secretaría Ejecutiva del CEPREDENAC en los programas de capacitación en México y otros terceros países.



## ANEXO IV LISTA DE PERSONAL DE CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO

### 1. Personal Administrativo

(1) Director del Proyecto en la República de Panamá.

Director General del Sistema Nacional de Protección Civil (SINAPROC) de Panamá,

(2) Gerente del Proyecto en la República de Panamá.

Director de Organización Comunitaria y Voluntarios del Sistema Nacional de Protección Civil  
(SINAPROC) de Panamá



## ANEXO VI COMITÉ MIXTO DE COORDINACIÓN


### 1. Composición:

#### (1) Presidente

- Director del Proyecto del país organizador de la junta de JCC

#### (2) Miembros:

##### a. Por parte de Centroamérica:

- Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Coordinador Regional 





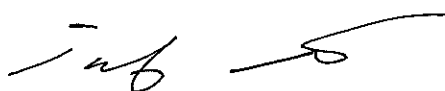
MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
THE EXECUTIVE SECRETARIAT OF THE CENTER OF COORDINATION FOR  
THE PREVENTION OF NATURAL DISASTER IN CENTRAL AMERICA  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE PROJECT ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR DISASTER RISK  
MANAGEMENT IN CENTRAL AMERICA "BOSAI"

The Global Environment Department of Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") had a series of discussions with the Executive Secretariat of the Center of Coordination for the Prevention of Natural Disaster in Central America (hereinafter referred to as "SE-CEPREDENAC") with respect to the contents of the Minutes of Meeting (hereinafter referred to as "M/M"), signed on May 29th, 2007, for the Project on Capacity Development for Disaster Risk Management in Central America "BOSAI" (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the discussions, both sides agreed to make changes to the articles and annexes of the M/M as per provided in the attached document herewith for successful implementation of the Project.

Done in duplicate in the English and Spanish languages, each text shall be equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

*MARCH 5<sup>th</sup>, 2008*  
Date of Signature



Mr. Takafumi Ito  
Director General,  
Global Environment Department,  
Japan International Cooperation Agency

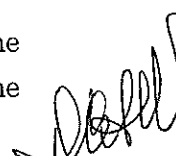


Mr. David Smith Wiltshire  
Executive Secretary,  
Executive Secretariat of the Center of  
Coordination for the Prevention of  
Natural Disaster in Central America

## THE ATTACHED DOCUMENT

## IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. Project Directors of CEPREDENAC member countries will bear the overall responsibility for the administration and implementation of the Project within respective countries.
2. Project Managers of CEPREDENAC member countries will be responsible for the managerial and technical matters of the Project within respective countries.
3. Executive Secretary of SE-CEPREDENAC, as the Regional Coordinator, will be responsible for the coordination and knowledge/information sharing among CEPREDENAC member countries, as well as the implementation of regional level activities of the Project.
4. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager and the Regional Coordinator on any matters pertaining to the implementation of the Project.
5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the counterpart personnel of the Project on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established whose functions and composition are described in Annex V. JCC meetings will be held in one of the CEPREDENAC member countries and the host country will be determined for each meeting.



ANNEX I MASTER PLAN

5. Activities

- (4)-2 Staff of CEPREDENAC member countries and Executive Secretariat of the CEPREDENAC, participates in the third-country training programs in Mexico and other countries.




ANNEX III LIST OF COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Administrative Personnel

Regional Coordinator

David A. Smith Wiltshire, Executive Secretary, SE-CEPREDENAC



2. Counterparts

Leticia Álvarez, Director of International Cooperation, SE-CEPREDENAC

(María Eugenia Soto was eliminated from the list)

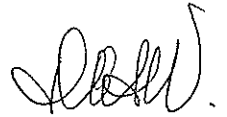


ANNEX V JOINT COORDINATING COMMITTEE

2. Composition

(1) Chairperson:

- Project Director of the host country of the JCC meeting



(2) Members:

a. Central American side:

- Project Directors of the CEPREDENAC member countries
- Project Managers of the CEPREDENAC member countries
- Regional Coordinator



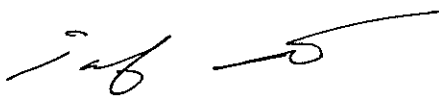
**ENMIENDAS DE LA MINUTA DE LA REUNION  
ENTRE LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN Y LA  
SECRETARÍA EJECUTIVA DEL CENTRO DE COORDINACIÓN PARA LA  
PREVENCIÓN DE LOS DESASTRES NATURALES EN AMÉRICA CENTRAL EN  
TORNO A LA COOPERACIÓN TÉCNICA DEL JAPÓN PARA EL PROYECTO DE  
DESARROLLO DE CAPACIDADES PARA LA GESTIÓN DE RIESGOS DE DESASTRES  
EN AMÉRICA CENTRAL “BOSAI”**

El Departamento de Medio Ambiente Global de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante “JICA”) sostuvo una serie de discusiones con la Secretaría Ejecutiva del Centro de Coordinación para la Prevención de los Desastres Naturales en América Central (en adelante “SE-CEPREDENAC”) con respecto a los contenidos de la Minuta de la Reunión (en adelante “M/M”), firmado en el 29 de Mayo del 2007, del Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión de Desastres en América Central “BOSAI” (en adelante “el Proyecto”).

Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron enmedar los artículos y anexos de M/M como queda estipulado en el documento adjunto a la presente.

Elaborados por duplicado tanto en idioma español como en inglés, ambos textos son igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia de interpretación, debe prevalecer el texto en inglés.

*MARCH 5<sup>th</sup>, 2008*  
[Fecha de la firma]




---

Sr. Takafumi Ito  
Director General,  
Departamento de Medio Ambiente Global,  
Agencia de Cooperación Internacional del Japón

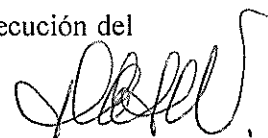



---

Sr. David Smith Wiltshire  
Secretario Ejecutivo,  
Secretaría Ejecutiva del Centro de Coordinación  
para la Prevención de los Desastres Naturales en  
América Central,

**DOCUMENTO ADJUNTO****IV. ADMINISTRACIÓN DEL PROYECTO**

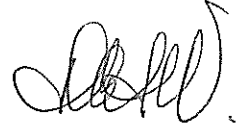
1. Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC asumirán la responsabilidad general de la administración y ejecución del Proyecto en los respectivos países.
2. Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC serán responsables de los aspectos gerenciales y técnicos de la ejecución del Proyecto en los respectivos países.
3. El Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC, en calidad de Coordinador regional, será responsable de la coordinación e intercambio de conocimientos/informaciones entre los países miembros de CEPREDENAC, así como la implementación de las actividades regionales del Proyecto.
4. El Asesor Principal japonés hará las recomendaciones necesarias y asesorará a los Directores y Gerentes del Proyecto, y Coordinador Regional en los aspectos relativos a la ejecución del Proyecto.
5. Los expertos japoneses proporcionarán la orientación técnica y asesoría necesarias al personal de contraparte del Proyecto en los aspectos técnicos vinculados con la ejecución del Proyecto.
6. Para la ejecución efectiva y exitosa de la cooperación técnica para el Proyecto, se establecerá un Comité Mixto de Coordinación (en adelante "JCC"), cuya composición y funciones están descritas en el Anexo V. Las reuniones del JCC se llevarán a cabo en uno de los países Miembros del CEPREDENAC y el país huésped será determinado en cada reunión.



ANEXO I PLAN MAESTRO

5. Actividades del Proyecto

- (4)-2 Participación de los funcionarios de los países Miembros del CEPREDENAC y la Secretaría Ejecutiva del CEPREDENAC en los programas de capacitación en México y otros terceros países.



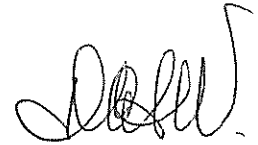


### ANEXO III LISTA DE PERSONAL DE CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO

#### 1. Personal Administrativo

Coordinador Regional

David A. Smith Wiltshire, Secretario Ejecutivo de SE-CEPREDENAC



#### 2. Personal de Contraparte

Leticia Álvarez, Directora de Cooperación

(queda eliminada la Sra. María Eugenia Soto de la lista)



## ANEXO V COMITÉ MIXTO DE COORDINACIÓN

### 1. Composición:

#### (1) Presidente

- Director del Proyecto del país organizador de la junta de JCC

#### (2) Miembros:

##### a. Por parte de Centro América:

- Directores del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Gerentes del Proyecto de los países miembros de CEPREDENAC
- Coordinador Regional

